銀河戦国群雄伝ライ 16

真鍋譲治

Dengeki Comics EX

DE-5-16

発行
メディアワークス
発売
主婦の友社

9784073071877

1920979009301

ISBN4-07-307187-4

C0979 ¥930E

発行●メディアワークス　発売●主婦の友社　定価：本体930円＋消費税が別に加算されます

RAI

BY JOJI MANABE

16

銀河戦国群雄伝ライ

• ARTIST
JOJI MANABE

• EDITOR
MASAHITO ARINAGA
ANRI KOMATSU

• BOOK DESIGN
TETSUYA ASAKURA

• SPECIAL THANKS TO
MASAHIKO YAMASHITA
YOSHIKI MORISHITA
TOSHIMICHI OKITA
SHINICHI YAMAGUCHI
HIRONORI NAGAI

戦国の銀河を生き抜く群雄たち

竜我雷 りゅうがらい

本編の主人公。その度胸と悪運の強さを狼刃に買われて一兵卒より師団長に抜擢され、五丈軍先鋒として南天に雪崩込む。南天軍の前線を突破するや、大暴れして要衝座王都に一番乗りを果し、その勇名は敵味方に響き渡る。その後も、数々の戦功により、昇進に昇進を重ね、髑羅のクーデター時には、南京楼の大守に収まっていた。初めて地盤を得た雷は、その地で希代の天才、師真を自軍に軍師として迎え、また、皇室の娘紫紋を妻に迎えるや、すぐさま中央に反旗を翻し、挙兵する。圧倒的に不利な状況の中、激戦を展開、ついに金州海にて、恩師狼刃を涙をふるって倒した。その余勢を駆って、まもなく全五丈を平らげる。

雲海入道 うんかいにゅうどう

雷の長年の戦友。かつては高僧に使える身分でもあったが大酒飲みが仇で宗門を追われた破戒坊主。だが、雷にとっては最も頼りになる豪傑である。終始、雷と行動を共にし、右腕として活躍する。雷の密命を受け、暴政下の武王都に残り、麗羅の保護を依頼され、その身柄を無事雷の元に届けた。

太助 たすけ

雷と同郷であり、幼い頃から雷を兄として慕う。その小さな体に似合わず、雲海と共に各戦場を転戦、修羅場をくぐり抜けた強者でもある。この度の偽帝討伐戦においては、帝都斉王都奥深く潜り込み、師真と図って、敵謀将骸延の失脚を画策するなど身軽さを生かした活躍が光る。

大覚屋師真 だいがくやしいん

南京楼の豪商大覚屋の放蕩息子。普段は酒色に溺れ、甚だ評判が悪い。だが、その知謀たるや史書、経書から兵法、天文、医学に精通した天才的な戦略家である。自分自身もその知謀で天下を動かすことを夢み、並みいる諸侯からの度重なる招きを全て固辞し、時を待つ。やがて、その南京楼に雷が赴任、紫紋に横恋慕した師真は、城に出入りし、次第に雷に傾倒していく。雷挙兵時には、軍師としてその才覚を余すことなく発揮、劣勢下の南京楼軍を勝利に導く。

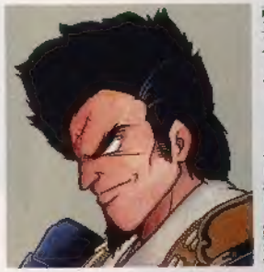
紫紋 しもん

男勝りの五丈の王女。弾正という強大な権力を背景に我がまま し放題である。雷には興味を持ち、紫紋とよく対立し、反乱の罪をかぶせて殺そうとした事もある。弾正の死後、髑羅と結び、五丈を乗っ取る。その後、国を追われ、雷の命を受けた雲海に保護され、雷の元に落ち着く。

麗羅 れいら

敗将阿曹主禅の一人娘。皇室の血を引く唯一人の王女故に、悲しい運命にもて遊ばれる悲劇の娘である。実の父阿曹主禅を雷に殺され、五丈に身柄を引き取られ、恩賞として敵でもある雷の元に預けられる。だが、雷とはそれを乗り越え深い愛情を寄せ合う。その後も、雷を陰日向に支えていく気丈な娘である。

孟閣 もうかく



冷静で勇猛な剛将で、南征以後、常に副官として経験不足の雷を適切に補佐する。歴戦の強者であり、その豊富な戦歴に裏打ちされた知識と経験を基に、よく雷を助け、軍事部門の責任者として、その覇業に重きをなす。

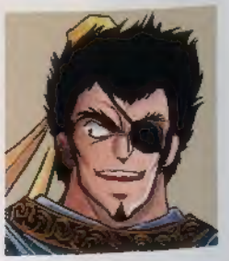
三楽斎 さんらくさい

南京楼軍の武将。主人運が無く、自分の出世のために各赴任地を転々とする。その処世術のために孟閣らにはよく思われていないが、彼自身極めて有能な官僚であり、弁舌の才をもって雷を補佐し、外交、内政面において活躍する、能吏派軍人。

鐘士元 しょうしげん

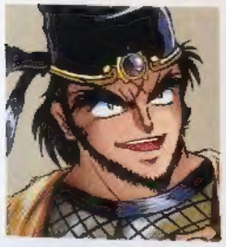
南京楼軍の武将。雷の師団長時代以来の宿将。勇猛果敢、常に先鋒を受け持ったが、師真の様な新参者とは反りが合わず、常に対立するが、初戦において師真の知謀を認め、その指揮下に入り、金州海の決戦に於いては顕著な活躍をする。

姚文 ようぶん



南京楼軍の武将。鐘士元等と共に雷の股肱の臣である。やはり師真とは合わなかったが、その命には逆らわず、よく戦い、髑羅討伐の前哨戦を勝利に導く。その後も、金州海や各地の戦いに於いて戦功を上げ、雷の五丈平定を助ける。

項武 こうぶ



項焉の息子で怪力無双の暴れ者。八十斤はあろう大斧を片手で軽く振り回す豪傑である。父と共に雷に帰順し、

その武勇を買われ、常に先鋒を任される。多分に深謀遠慮が欠けるところもあったが、敵味方共に認める千軍万馬の強者である。

【林則嘉】りんそくか

南京楼軍の謀臣。若い頃は風采も上がらず誰にも相手にされずにいたが、城内に出入りしている間に師真に見出され、雷輔翼の人物として師真と双璧をなす。天才肌の師真に対して、地味ながらその誠実さを持って数々の献策をし、雷の地盤の発展を図る。特に金州海の決戦に於いて逸る雷を諫めたのは特筆される。だが師真の唱える「覇」には疑問を持つ。

【如晦】じょかい

東河の七賢人と呼ばれた処士の一人。士官をせず、しばらく田舎に於いて晴耕雨読の生活を送っていたが、右大臣西豹により推薦され、五丈を平定した雷により、三顧の礼を持って迎えられ幕下に入る。女偉の殺害を雷に強く勧めた。

【飛竜】ひりゅう

正宗の側近で知恵袋。親衛隊長として常に正宗の側にあり、犬馬の労を惜しまない。弾正の南征においても的確に正宗を補佐し、雷の猛攻より正宗を守り抜く。弾正の余命の短い事を予見し、又、羅候の動きに警戒するよう正宗に進言するが…

【虎丸】とらまる

正宗の弟。智の嫡子である。国政、軍事を姉である正宗に全て任せているが、正宗の命より、練の羅候との修

好のために義兄弟の契りを結ぶ。北伐の際、正宗失脚のために智王に祭り上げられる。

【羅候】らこう

練国国王。父羅鶴の死後、兵権を受け継ぐ。最初は南天の大国、智に従属していたが、徐々に勢力を広げ、南蛮王国王女、邑峻を嫁取り、その地盤を強固な物にする。正宗の北伐時には、隙を突き南帝閣を占拠、虎丸を智王に立て正宗の失脚を図る。南蛮王の死去後、その王位を継ぎ、練・南蛮二国の盟主となり南天に揺るぎない地位を築く。雷の偽帝討伐戦に於いては中立を宣言、だが、その野心に満ちた瞳は銀河中央を睨んでいる。

【姜子昌】きょうしーしょう

練国きっての名将。若くして、練軍の大都督に任じられ、羅候を補佐し練国の発展に尽力

する。正宗による早期銀河統一を阻止するべく画策、幼王虎丸を立てて正宗を失脚に追い込む。だが誰よりも正宗の恐ろしさを知っており、その警戒を怠らなかった。飛竜とは浅からぬ関係か？

【蹄庖】ていほう

練の若き武将。姜子昌の右腕ともいわれる参軍校尉である。知勇に秀でて、智、五丈、南蛮に囲まれた羅候を助け、奮闘する。戦功だけでなく、南蛮や正宗の元への使者として、首尾良く務めを果たすところも、彼の非凡な才能を示している。

【夏候才】かこうさい

羅候配下の有力な武将。南蛮の重臣、夏候獣の息子である。羅候が南蛮の王位に就いた時、兄の夏候牙と共に反対し、クーデターを試みるが失敗、羅候の前に引き出されるが、その人物の器量の大きさに感じ入り、その後羅候の陣営に加わる。夏候一族は昔からその勇猛さで知られている。

【夏候獣】かこうじゅう

南蛮王、琥瑛罵洲に仕えていた名将。南蛮の名門夏候氏の頭領でもあり、老齢ながら任侠気溢れる豪傑。羅候への王位禅譲を支援し奔走した。南天軍の重鎮であり多くの将官に敬われている。

【龍緒】りゅうしょ

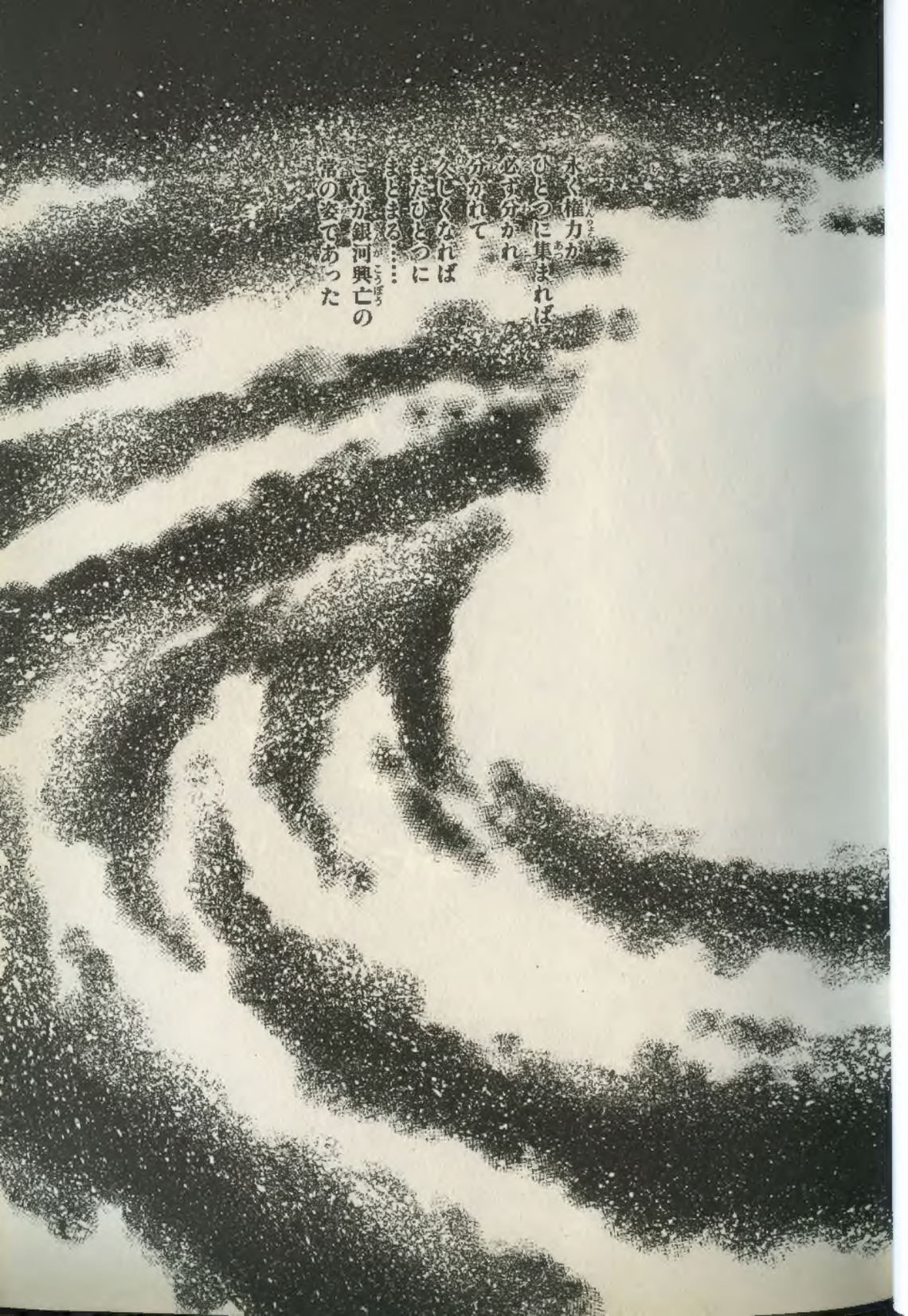
夏候獣と共に、琥瑛罵洲、羅候の二君に仕えた老臣。血気にはやる若き主君、羅候に意見できる貴重な存在である。五丈との戦いには、主席参謀として、その任を全うすべく大本営に席を置く。実質的には、現在の練の宰相職にある。法令、兵法いずれにも造詣が深く今回の北伐にも帯同はしているものの、数多い将官の中にあってはどちらかと言えば慎重派である。

【邑峻】ゆうしゅん

南蛮王琥瑛罵洲の一人娘。羅候とは許婚の仲である。南蛮王国との連携を強めるために、羅候の元に輿入れする。百人に及ぶ女兵士を従えるなど相当なじゃじゃ馬ではあるが、花嫁修行は熱心だった。得意料理の七色餃子のてんこ盛りで宮殿内を餃子だらけにしてしまった。とにかく羅候が好きで好きでたまらない若奥様である。

【神楽】かぐら

練国武将。邑峻の遠縁の血筋で白象を駆り八十斤の鎖鉄槌を振り回す猛者である。他の南蛮人に見られるように相当に気性が激しくプ



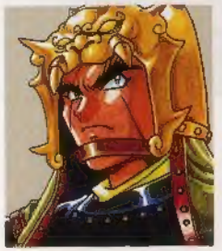
ライドも高い。女将を軽く見る姜子昌とは何かと対立するが彼にはほのかな恋心を抱く。今後の展開は？

【玄偉】げんい

五丈四天王の一人で凄腕の謀臣。帝国崩壊後の戦乱の中、元帝国側の有力な武将であったが、早くも帝国の再興に見切りを付け、弾正側に寝返り、弾正に重く用いられる。骸羅の反乱の際、華玉、鳳鳴共々、殺害されたと思われていたが、某所での生存が骸延の知るところとなる。雷の偽帝討伐戦に暗躍、部下の華玉と西羌王秦鷺の許に身を寄せる。やがて、彼を抱き込み戦局の最終段階に於いて参戦し、斉王都の戦いでは雷を出し抜き、幻術を操り偽帝骸羅を倒す。その後も一勢力を維持し、新政府の中で雷と対立する。

【華玉】かぎょく

玄偉の腹心。李張道師の高弟で、その秘められた力で玄偉に適切な助言をする。弾正の死期を予測し、玄偉を天下人にするため暗躍する。骸羅の反乱の混乱時に玄偉と共に消息不明となるが、雷と骸羅の対決を前に現れ、策謀を巡らす。斉王都では師真と功を争うが、寸での所で破れる。



【秦宮括】しんていかつ

西羌王秦鷺の息子。西羌一の豪傑である。父親に近づいた玄偉を嫌い、かえってその怒りに触れ謹慎させられる。秦鷺が雷に倒されたのを知り、叔父秦起と共に五丈に復仇戦を挑む。迎え討った項武の激戦を繰り広げ、強者ぶりを発揮した。雷に心服し五丈とは講和を結んでいる。

【項馬】こうえん

雷の旗揚げ時からの宿将で項武の父。最後の槍働きの場を求め、大挙攻め寄せた南天軍の迎撃に志願、圧倒的な兵力差も省みず奮戦し星海に散った。だがその戦いぶりは雷に貴重な時をもたらす。

【独眼竜正宗】とくがんりゅうまさむね

智国の実質的な統治者であった女将。独眼竜の異名をとり近隣諸国に恐れられた。やがて智国の国運は傾き、国土を雒侯に奪われることになるがその逆境の中でも懸命に弟である智王を助け捲土重来を期す。だがやがて発病、起死回生を狙った五丈との決戦で命を落とす。

銀河歴元魔三年
神聖銀河帝国
皇帝光輝帝の崩御により
十三代二百七十年にも
及ぶ帝政は終わりを
告げた……
それは
全宇宙的な
大動乱の始まりでもあった……!!

おき出しの力のみが支配する暗黒の時代が到来したのだ

各地に決起した群雄達は自ら帝国に取って代わるべく互いにしのぎを削り
戦火はやむことなく多くの男達を戦場に駆り立てた

血で血を洗う抗争の中一人の男が頭角を現す……!
元帝国左将軍比紀弾正!!

五丈
彼は巧みな戦術と稀に見る政治力で強大な軍団を率い自領に五丈国を建国する
南天の犬共め!
奴らをわしの足許にひれ伏し銀河を統一するのだ!!

練王羅候
智国国主代理
独眼竜正宗
五丈軍一兵卒
竜我雷
西羌王国太子
秦宮括
旧帝国内での弾正の対抗者
阿曹主禅（紫紋の父）
南京楼の放蕩息子
大覚屋師真
五丈
氏王都
佐倉

偽帝
骸羅を討つ!!

竜我雷 挙兵!!
南京楼を足場に
力を蓄えていた
雷は
天才軍師 帥真の
助けを借り
果敢に骸羅に
挑んだ

だが弾正は
強行した南征の
疲れが元で発病
夢半ばにして
息をひきとった
享年七十四才
たちまち
重臣の間で
内部抗争が
噴き出す

骸羅三兄弟の
独裁が始まるのだった
大帝骸羅
しかし
その暴政は
人の風雲児に
天に駆けあがる
機会を与えた
骸山
骸延

金州海で
恩師狼刃を
激戦の末
涙をふるって
倒し

やがて
骸羅を
敗死させるに
いたった
若き
五丈王の
誕生である

一方南天では
長い間
独眼竜正宗の
率いる智に
臣従を強いられて
きた羅候が
次第に力をつけ
宿敵正宗に
智領を放棄
させるまでに
いたった

やがて
孤高の狼
正宗は
開彭沖にて
陣没……
その死は
三国鼎立による
不気味な
平穏の終焉と
ともに
来たるべき
大銀河大戦の
到来を告げていた
全銀河は
この俺様の手で
統一するのだ!!

南天の虎羅候!!
北天の竜竜我雷!!

激烈な闘いを
勝ち抜いてきた
両雄の
天下統一への熱い
想いが
戦いを更に
苛酷なものに
していくのだった……

どけっ
南蛮の犬ども!!

項武に遅れるな!!
押せえ——っ!!
項羽の仇を討つ時は今ぞ!!
我こそは五丈の姚文!!
そこにいるは敵将か!!
将軍! お退りを!!
うおっ!!
将軍を守れいっ!!

項

わわわっ!!
だ だれぞっ 奴を討てっ!!
討ってくれ~!!
逃げるな!!

まさかり振り回す海賊の小せがれたぁきさまのことか!!
なにいっ!! てめえがここの大将か!!
おうよ!!
南天軍先陣胡雷!!
老いぼれ親父と共に地獄へ行けーっ!!
ぬかせっ!!
ははは どうせ五丈はもうなくなる!!
無駄なあがきはよせ!!
やかましいっ!!
俺の望みはなーっ!!

ささまらみたいな
南蛮の大将どもを!!
一人残らず
叩き殺して…!!
南天王羅候の
大馬鹿野郎の首を…!
頂戴することよ!!
こうして
不意を突かれた
南天先鋒軍は
壊滅的な打撃を
受けた
頼みの
帝虎級戦艦も
奴は多くの
死傷者を出して
後退し

残る一隻!!
先鋒軍総大将
夏候才の旗艦
「王虎」のみが
味方の軍勢からも
切り離され
包囲・孤立していた
将軍!
五丈軍はこちらの
主砲の射程外で
包囲したまま
攻めてきませんぞ
胡雷・単干
両将軍とも
連絡がとれません!
くそうっ…!
ぐずぐずは
していられません
快速船にて本陣に
救援を請う使者を
出しましょう
バカ者
また親父の
手を借りようと
いうのか!!
この王虎一隻は
一個軍団に
匹敵するのだ!
包囲を
突き破るぞ!!
艦首主砲で
正面の敵を
撃破する!!

速度
第三戦速!!
主砲斉射
三連!!
射撃用意!!
お待ち
ください!
正面の敵が
後退します
本艦と同速!
依然射程外
です!
将軍!
後方両面より
敵接近!
撃て!!
弾幕を
張れ!!

五丈のやつら
この大戦艦を
干上がらせる
つもりだ……！
しかも
その策を
この王虎で
ためそうと
していやがる
……！
補給中でしたし
何しろこの艦は
大食らいで……！
将軍！
読めて
きたぞ…!!
将軍！
弾薬と
燃料が!!
欠乏して
いるのか!?
引き返して
行きます！
射程外に
出て行きます!!

今
八個師団で
包囲しています
この数が適正か
どうかもまもなく
わかります
師真！
補給中の今
お前たちの考えた
帝虎を封じる
五つの策を
聞かせてくれ
しかし あれが
帝虎級戦艦か……
まさしく怪物だな
戦意が
最高潮で
あったし
うまく
奇襲できました
緒戦は
大勝利だ！
幸先
いいな
師真！
こちらの損害も
微々たるものです

帝虎は
まさしく城
浮かぶ要塞と
いうべきでしょう

古来
火砲の発達して
いなかった時代
堅固で巨大な
城攻めは
多くの英雄達に
とって常に
困難な戦いでした

それ故
多くの戦法が
考えられました
帝虎が城なら
それがそっくり
つかえるのです

まず一つは
城を孤立させます

帝虎と配下の
軍団を切り離し
また 救援軍を
阻止すること

二つ目は
孤立させておき
敵に燃料・弾薬・
食料を使わせ
干上がらせること

撃てない主砲
動けない艦
腹をすかした
兵士では
もはや帝虎は
城とは
言えますまい

なるほど

完全に孤立し
食料も乏しくなった
兵士は不安に
かられます

三つ目は
その兵士の
心を攻めます

心……？

はい
兵法に
城を攻めるは
下策
心を攻めるは
上策と
あります

外界の
情報を完全に
断ちます

包囲した
城の兵士は
外の戦況も味方の
有利・不利も
わからなくなります

また逆に
こちらから
偽情報を
流します

追いつめられると
人の心は変わります

もはや
自沈か降伏以外
選択肢は
ありますまい

今までの三つの策は
やや時間を要し■す
残り二つは
力技ですが
時間はあまり
必要としません
四つ目は
内部破壊です
内部？
堅固な城……
特に城壁を
破壊するのに
外から坑道を掘り
爆薬にて地下から
破壊しました
つまり
敵の懐に
潜りこみ
一挙に
破壊しさる…
実は以前より
多数の間者を
南天軍陣中に
忍ばせております
ふ
さすがに
手際がいいな

ジャン♡
ゴウン
ゴウン
おいっ!!
そこの
若えの!!
おう
おまえだ
おまえだ!

なんだ 見なれねえ顔だな 新入りかあ？
はいはい よろしくお願いします
あ——誰でもいいちょっくら酒調達してこいや
ふ——やばいやばい
あハイハイ酒ですね
ハイただ今……
太助も～～～？大丈夫かよあいつ～～～
骸延の時もそうだが敵方への溶けこみ方も巧みですし…
自ら志願しました
弾薬庫を爆破できれば帝虎とて轟沈でしょう
太助頼むぜ！

そして最後の五つ目
古代の城が安全だという神話が崩れた原因……
それは火砲の発達による城壁の容易な破壊でした
装民の造ったという巨砲か！
さよう！
わたしが現物を見て初速などを計算してみた結果射距離六〇〇〇衝角九〇度で帝虎の装甲板を撃ち破れます
せがれ装伯に命じ突貫工事で改造……まもなく到着します！
よし!!

これら
五つの策を
バラバラでは
なく
互いに
組み合わせる
ことによって
帝虎を
打ち倒せましょう
帝虎級戦艦は
南天軍の
主戦力
これを
無力にしてこそ
勝利に
つながります！
うん！
よく
考えてくれた
帝虎に対して
恐れをなくし
自信をつければ
五丈軍に
怖いものは
なしだぜ！

お……
ら……
羅候さ……
わびは
聞き入れたぞ
単干！
いったい
どーいう
ことだ!?
ええっ!?

先鋒軍だけで
五丈を倍する
兵力を持ちながら
胡雷は討ちとられ
夏侯才は
囲まれてるだと!!
帝虎級戦艦は
絶対に敵に
尻を向けるような
ことはしては
ならんのだ
見ろ!
逆に敵先鋒
項武はこんなにも
味方陣営に
食いこんでるぞ!!
敵将項武は
一騎当千の猛将
それが父親の
仇討ちとばかりに
すさまじい勢いです
今は
その勢いを
かわすのが
得策ですぞ
かわすだと?
優に十倍を超す
兵力を持ちながら
たかが敵将一人に
なぜ
おびえなければ
ならん!!
龍緒!
きさま
臆病風に
吹かれたか!!
帝虎を
前に出せ!
俺がたたっ斬って
やる!!
と…殿!!
殿!
大人げ
ないですぞ!!
と…っ!
なんだと
妾子昌!!
てめえっ!!
項武など
竜我の露払いに
すぎません
斬ったとしても
何の功名に
なりましょう
戦を割くに
なぜ牛刀を
用いるのです
項武を討つなど
だれか他の者に
おまかせあれ
けっ
そーかよ!
だれか!
項武を
討つ者は
おらんか!!

それがしが参りましょう！
うむおぬしは濮陽骨将軍の副将呂朱だな
はっ武芸人並みすぐれた腕前よもや項武にひけを取りますまい
よーし！行けいっ！行って項武の首をここに持ってこい!!
ひいっ！一撃だ!!
き……鬼神だぁ！
なにいっ呂朱は一刀のもとに斬られただと!!

敵将項武は
呂朱様の首を
マストに吊るし
気勢を
あげています！
おのれ
小わっぱが!!
拙者が参ろう!!
いや
わしじゃ!!
そんな腕で
よく将が
務まるな!!
ぐうっ!!
くっ…っ！
おおおっ!!

また
斬られただと?
項武という男
想像以上の
強者ですな
このままでは
夏侯才将軍の
救援どころか
中軍まで
突入されますぞ
はん!
奴が強いんじゃ
なくて
こっちが
弱すぎるんだ!
ど…どうした
これ!
だれか
おらぬのか!!
軍功を
あげる
またとない
機会じゃぞ!
おぬしは
どうじゃ!!
あ…
それがしは
その…
体の調子が…

なら
そちは
どうじゃ!
い…いえ
そのような
大任は
とてもとても…
ええいっ!!
しかし
殿自らの
出陣だけは
おやめくだされ!!
じゃあ
どうしろってんだ
どいつもこいつも
腰抜けぞろいだぞ!!
姜子昌…
これでも
俺を止めるか…
殿!!
うっ!!
陣中に人なしとは
納得しかねます!!

ええいっ
バカ者!!
殿の御前じゃ!
ひかえいっ!!
身の程を
わきまえろ!!
ぐっ!!
邪魔を
するな!!
この
無礼者
がーっ!!
殿!!
この神楽が
項武の首を
取って
進ぜましょう!!

おお!!
おまえか!!

ご記憶に留めていただき光栄です!
今は姜大将軍の所で一軍を預かる身!
末席にて出陣の命を待っておりました!!
おもしろい!
お前の戦車隊が実戦ではどれほどのものか見てみたいしな

それでは出陣をお許し願いますか!?
殿
女将と白象戦車隊……
殿のお喜びになりそうな派手な組み合わせではございますが
うっせー!

あやつにさしおかれる列侯・諸将にご配慮を……
無名の……しかも女を出しもし破れでもすれば物笑いの種は必定
また諸将もおもしろくはございますまい

まったくだ!!
女に戦ができるものか!
戦場に出れば腰を抜かすだけじゃ!

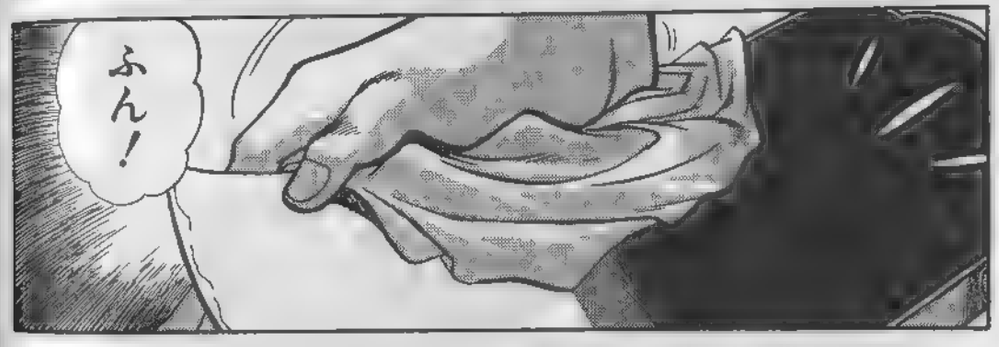
ははは
ご再考を……
チェッ
いらぬ気づかいよ大将軍!

殿はね
口先だけの
男は嫌いなの
邑蛟！
何だ奥に
退がってろ！
おまえの口だす
所じゃない
いいえ！
どいつもこいつも
南蛮の女を
軽く見てるわ！
王妃様
口先だけとは……
臣下に対して
やや言葉が
すぎませんか
項武とかいう
若造に攻めこまれ
オロオロしてるだけの
あんた達のことを
言っただけよ
気に
障った？
おいっ
邑蛟！
あーら
そうかしら

……
ねえ
羅候！
ここは神楽に
まかせて
あげて！
ね♡
羅候だって
あの白象戦車隊の
すごさ
見たじゃない
そりゃ
そうだが……
ね♡
お願い
邑蛟
一生の
お願い
♡
わかった
わかった！
最初から
そのつもりだ!!
なりませんぞ
殿!!
なによ
牛魔王！
殿の命令に
不服が
あるの！
例え
王妃様の
願いとはいえ
これだけは
承服しかねる!!

なんですってぇぇぇっ!!
やいっ!!
女あ!!
きさま派手な演習で殿の気を引いたらしいが所詮戦ごっこ!!
本物の戦はな!祭りじゃねえんだぞ!!
下衆がほざくのはやめな……!
な……なにいっ!!

一方
とうの項武軍は
南天の夏候才
救援軍を
ことごとく打ち破り
南天軍の布陣に
大穴をあけ
居座っていた


ふん！

南天の野郎供
どいつも
こいつも口ほど
にもねぇ！
とんだ
腰抜け相手
ばかりだぜ！
将軍は
天下無双の
豪傑！
南天軍も
襲えあがって
いましょう！
だが
まだまだ
満足しねえ！

あれの
てっぺんに
羅候の首を
ぶら下げる
まではな
項武様！
新たな
敵軍です！
おっ！

へっ
懲りねえ
連中だ
迎え討つぞ!!
ははーっ!!

一気にかたをつけるぜ!!
ええいっ雑魚は無視しろ
大将艦を捜せっ!!

いました左前方です!!
おおっ!
頂
神
うん……?
聞いたことねえ名前だな
まっいいか!
南天の侍大将どもを全て討ち取るのが俺の望みよ!!
ゴゴゴゴゴゴゴゴ

行くぜ！
う……!!
な…なんだ
こいつらは…!!

うわわ……
くる！
くるぞーっ!!
ええいっ
立ち止まるな
押せぇ——っ!!
ぎゃ——っ!!

わわわ
こっちに
向かって
くるぞ!!
ひぃーっ!!
ゴゴゴゴゴ
バカヤロウ！
ひるむな!!
あんなの
コケおどしだ
構えろ!!
白象
戦車隊の
力を見せて
やれ!!
突撃——っ!!

ははは
はは
逃げる
逃げる！
これが
音に聞こえた
五丈の精鋭か！
五丈の精鋭は
逃げることしか
知らんのか!!
ぬん!!
ははは
待て
待て——っ!!
う……
うぬうっ!!
矢じゃ！
弓隊
前へ——っ!!
放て——っ!!

ええいっ
ふんばら
ねえか!!
敵に後ろを
見せるな!!
項武か!!

なんだ
なんだ
その
ヒョロヒョロ矢は!!
そんなもの
痛くもかゆくも
ないよ!!
てりやあっ!!
ぐわっ!!
だ…だめだ
どうやっても
防ぎ
きれない!!
ひ……
ひけ――っ!!
敵は
算を乱して
逃げ出したぞ!!
追えっ!!
追って
踏みつぶせ!!

項武よ！
会いたかったぞ!!
てめえっ
ケダモンの
力なんて
借りやがって
……!!
許せねえ!!
我が名は
神楽!!
あんたも
この戦場の
餌食になりな!!

し……
しまったぁ!!
ほらほら
得物なしで
どう戦う!?

けっこう
やるようだな!
けど
いつまで
もつかな!?
それ!!
!!

ぐうう…っ!!
終わりだ!!
くだけちまいな!!
!!
御大将をお助けしろ!!

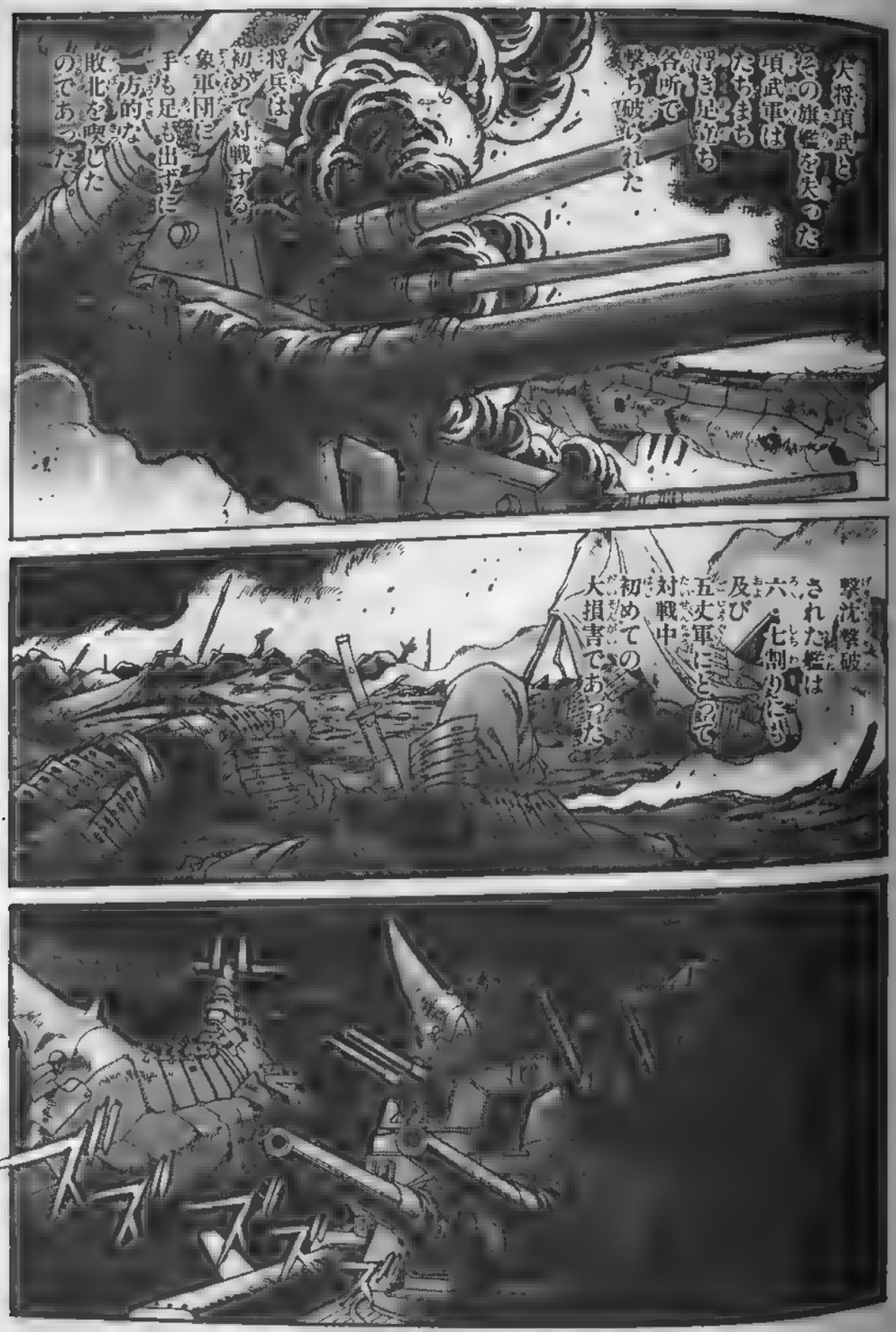
項武将!
肩におつかまりを!!
ええいっ邪魔だてするな!!
船を……!
船を用意しろ!!
急げ!
負傷している!
すぐに艦から離れろ!!

おのれ
逃がしたか……!!
くそうっ!!
爆雷隊!
残敵を
一掃しろ!!
!!
俺の艦……!
俺の
部下達は……!!

おいっ 何をしてる！ 艦にもどせ!!
急げーっ!!
将軍!!
今は……
今は ご辛抱を……!!
その 傷では あやつには……！
犬死にです！ 耐えてください ませ……!!
おおっ……
なんて ことを……!!

ぐぬぬう…っ!!
必ずや 必ずや 仇を討つ時が 参ります!!
今しばらく……!!
ふん！
項
ヒュン
ヒュン
ぐやや
!!

項武よ！
きさまの首のかわりに軍旗をいただいたぞ!!
いつでも取りにくるがいい！相手をしてやろう!!
おまえにその気があればの話だがな!!
おのれ！昔わせておけば……っ!!
将軍我慢です!!
今は何よりも将軍の傷を癒して軍の建て直しを……!!
くうう……っ!!
竜王に……親父にも会わす顔がねえ……!!


大将項武とその旗艦を失った項武軍はたちまち浮き足立ち各所で撃ち破られた
将兵は初めて対戦する象軍団に手も足も出ずに一方的な敗北を喫したのであった
撃沈撃破された艦は六、七割りにも及び五丈軍にとって対戦中初めての大損害であった
ズズズズ

なにっ？
白象戦車隊？

はい
連中は
ケダモノを
自由自在に
扱い……
弓・槍をも
受けつけず……
兵は混乱し
大敗を喫しました
申しわけ
ございません！
あ――
気にするな
仕方がない

それにしても
おまえに
それだけの
深手を負わす
神楽とかいう
女……
ただ者じゃ
ないな……
はい……
敵ながら
統率のとれた
戦車隊の指揮と
いい……
大した
やつでした……
けど
次に会ったら…!!
わかった
わかった
とにかく
身体を休めろ

師真
このやっかいな
相手
力技では
押しきれまい
その通り
ですな

南蛮には
あーいう
ケダモノを駆使した
戦法があるとは
書物で読んだことは
あったが
これほどのものとは
しかし
このままでは
我々が握っていた
主導権を
奪われかねません

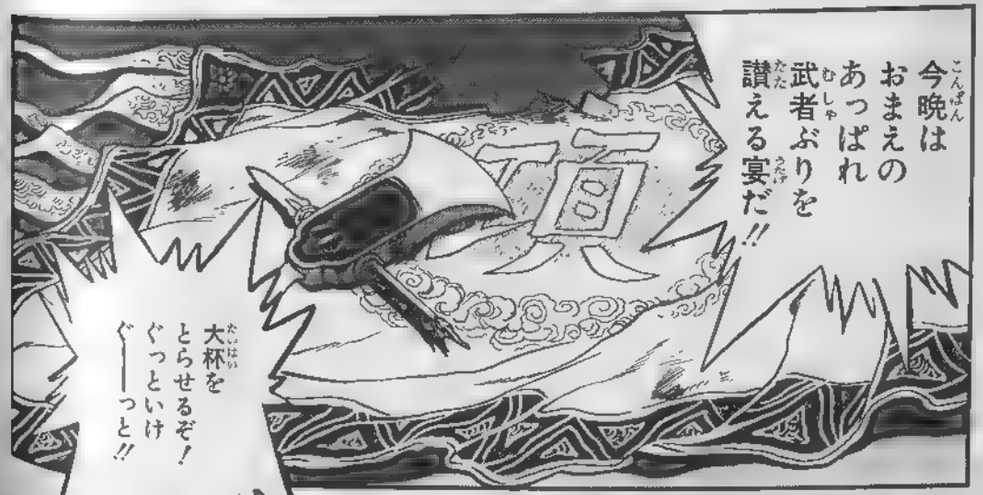
うん……
艦隊決戦の
戦機をさぐる
ためにも
それはさけねば
ならん……
今までの
筋書きが
パアだ！
なら
どうすれば
いい？

そーだな……
……
この金剛を
使って
みよう
なにっ

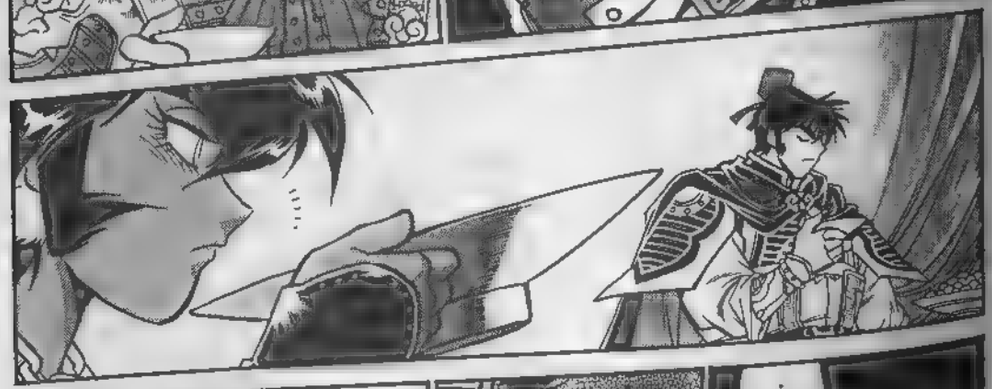
竜王……
そして皆の者
ご安心を！
その
南蛮
ご自慢の
白象戦車隊……
見事
止めて
見せよう

次は
象狩りだ！

見事だ!!


今晩はおまえのあっぱれ武者ぶりを讃える宴だ!!
百
大杯をとらせるぞ!
ぐっといけ
ぐーっと!!

お――っ
ん!
頼もしい飲みっぷりだ



……
もう一杯いただきとうございます!!
おお!!

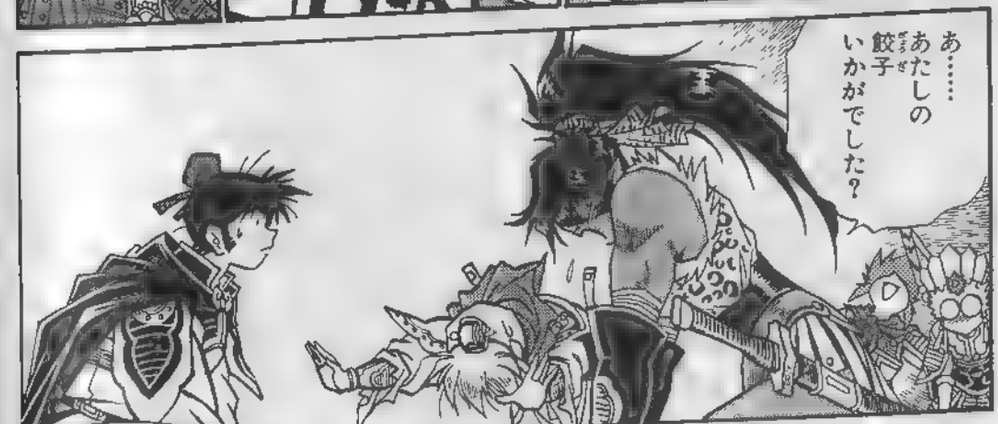
大将軍！
ヒック
女のあたしが
手柄をたてるのが
そんなに
お嫌で
ございますか！
え――っ!!
……
どうなさいました
そんな
うかない顔を
なさって！
神楽ったら
また
姜子昌に
ケンカ売って
～～～
おっ
なんだ
なんだ
姜子昌の奴
からまれて
やがるぞ
ちょっ
ちょっと
神楽……!!
いいから
放っておいて
みようぜ
おもしろそうだ！
おいっ
よさぬか!!
酔うて
おるのか
おぬし!!
いいえ
いたって
正気で
ございます!!
それがし
ひとつだけ
大将軍に
お聞き
しとう
ございます！

なんだ
言ってみろ

……!!

あ……
あたしの
餃子
いかがでした?

ナイス
神楽!!



我々も
お聞きしとう
ございます!!
ささまら……!!
はや
早く
なんとか言って
ください……!
こっちは
心臓が爆発
しそうなんだから~~~
さあ
姜子昌!
天下の
大将軍らしく
堂々と
答えてやれ!
さあ!
さあ!
さあ!!

申しあげます!!
五丈軍先鋒
項武!
またしても
我が前衛に
うちかかって
おりまする
すでに
第一線を
突破されました!!
なにいっ!!
こしゃくな
あれだけ痛め
つけても
まだ懲りぬか!!
殿!!

先の戦で項武の首をはねられなかったそれがしの責任です!!
改めて出撃を……項武と竜我の二首を殿に進呈し罪をわびとうございます!!
ようし大きくでたな!
出陣を許す!吉報をまってるぞ!!
はっ!!
待ていっ!!
戦は負けて学ぶものだ敵を侮るな!

……わかりました!
ははは おいっ 姜子昌! 俺だけには教えろよ どう答える気だったんだ?
殿! そんなことより援軍を出されませ!
なんだ姜子昌奴の白象戦車隊が不覚をとるとでもいうのか?
力と力の激突では項武にひけをとらないでしょう
しかしその力がかわされては……

ん？
神楽様！
五丈軍が
退却します!!
ふん！
大将軍の
申す通り
何か小細工を
考えているな

苦戦は
まぬがれ
ますまい
さあっ
項武だろうが
竜我だろうが
だれでも
相手してやるよ!!

あれは
金剛！
しかも
"帥"の旗印!!
竜我の旗艦だ!!
願ってもない!!
金剛に
つけろ!!
竜我を
討ちとるのだ!!
行け——っ!!

竜我か!?
ははは…っ
バカが
自分の方から死にに
出てくるとは……!!
その首
もらったぞ!!
な…っ!!
!!

ガガガガ

そ…そんな
バカな……!!

どうっ……!!

神楽様(かぐらさま)!!
うわぁ!!

ひいいっ!!

罠だ！落とし穴があるぞ!!
退がれーっ!!
えーい退がれというに!!
どうどう!!
だが
一度猛り狂った象達はその突進力故に制御することはむずかしかった
次から次へと突き衝突を起こし
なすすべもなく奈落の底に落ちていった

んん…っ!!
一体……何が……！
ぎゃあ!!
何てことだ……!!
あたしの戦車隊が……!!

うおおっ!!

敵の大将がまだ生きてるぞ!!
弓隊うてーっ!!

く…っ！
まだ……！
まだ死ねん…!!!
それぞ!!

ぬん!!
うわっ!!
出たぞ!!

竜我〜〜〜っ!!
まだ終わっちゃいないよ!!
その首引っこ抜くまでね!!

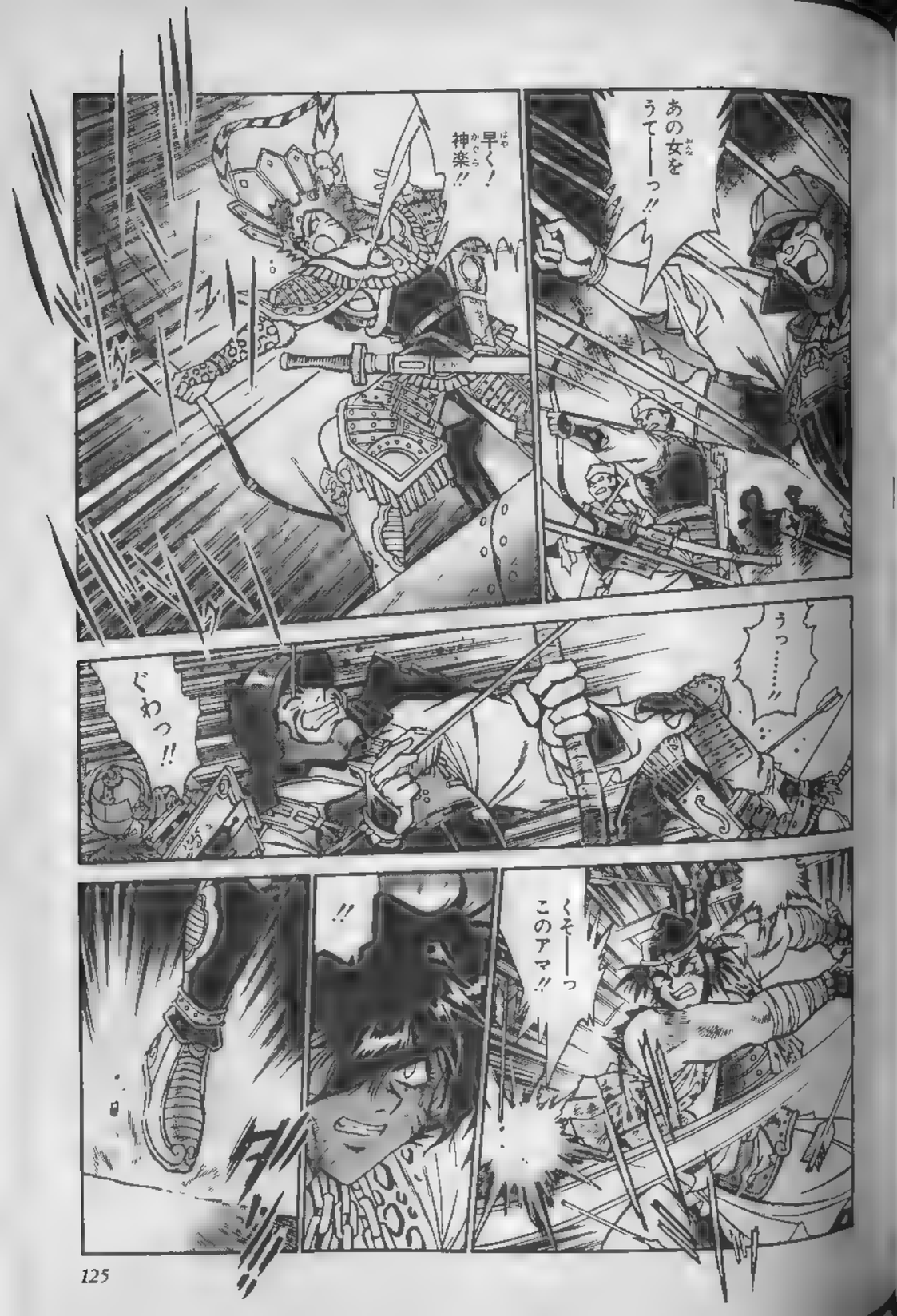
まちやがれ!!
てめえの相手はこの俺だ!!
項武!!
部下の仇とらせてもらうぜ!!
しゃらくさいわ!!

どりゃあ!!
おのれーっ!!
ぬん!!

あうっ!!
ぬおうっ!!
くそぉぉぉっ!!
これまでか…!!
姜子昌様
お慕いして
いました……

新手か!!
うおっ…!!
!!

!!


神楽!!
早く!!
こっちに乗って!!
あれは…!!
すげえ派手……
もどれません…!!
呂峻様
こんなざまじゃ殿にも大将軍にも会わせる顔がありません!!
何言ってんの!!
あんた餃子の答え聞いてないでしょ!!
それもしないで先に死ぬ気!?

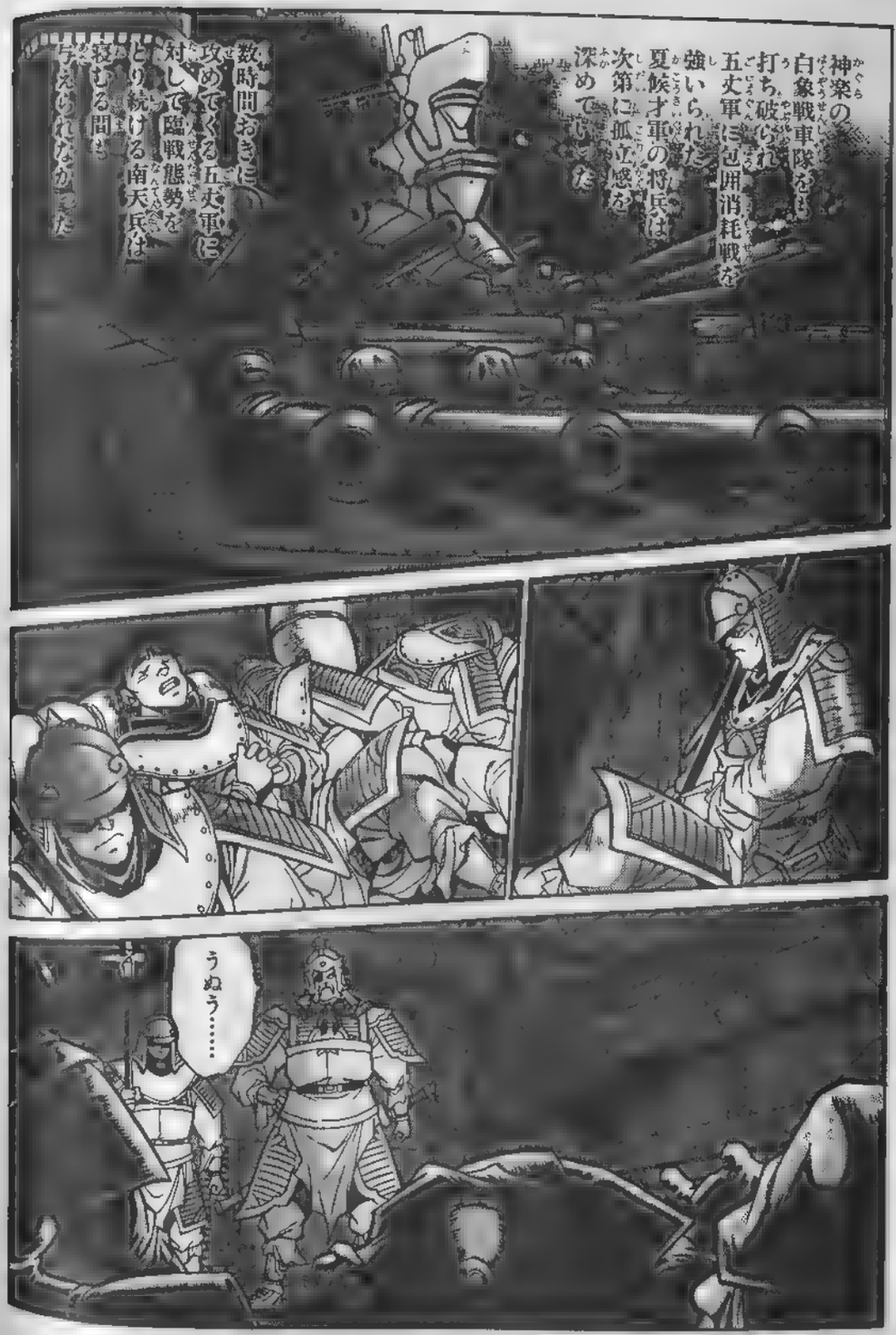
早く!
神楽!!
あの女をうて――っ!!
うっ……!!
ぐわっ!!
!!
くそ――っこのアマ!!

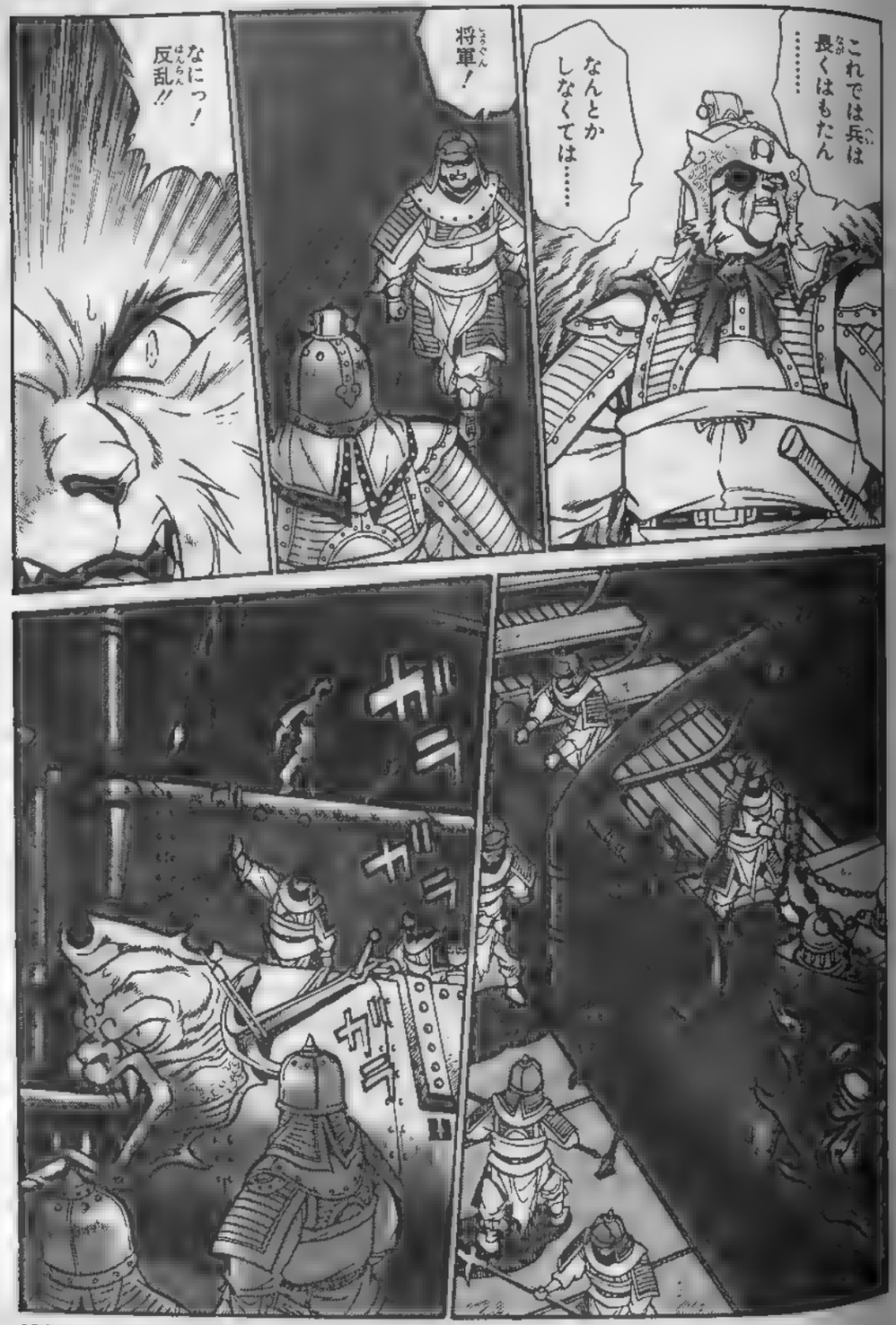
申しわけございません!!
まさかあのようなワナがあったとは……!!
不覚でした!!
殿はえらくご気嫌を悪くしてもう休まれた
目通りはかなうまい
あ…あの大将軍……姜子昌様は?
殿と今後の戦の展開についてお話合っておられる

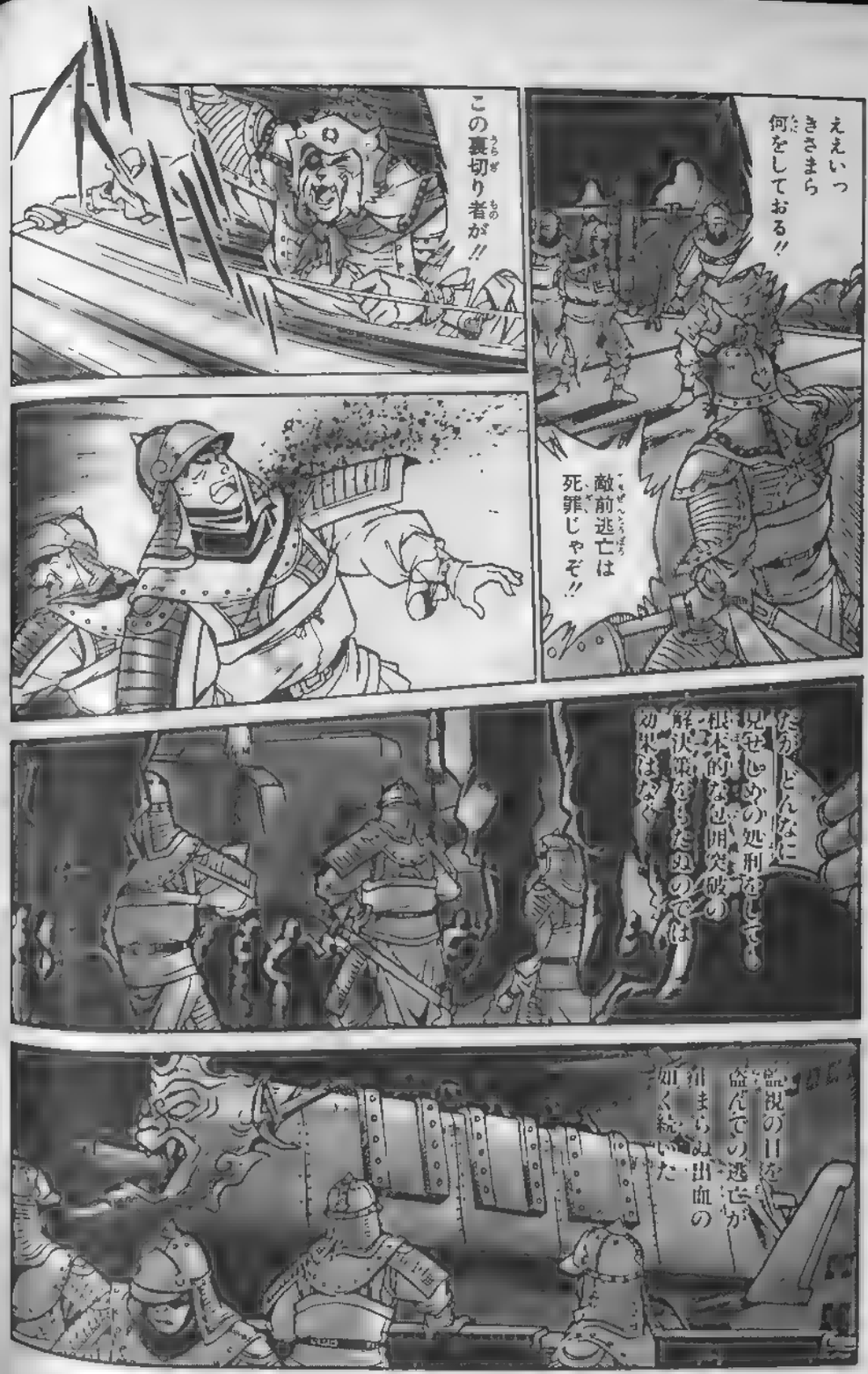
ふう……
おっかねえ女共だぜ……

そうですか……
龍緒様……
ん…
あたしは死ぬべきだったのでしょうか…
おめおめと生きて帰ったあたしを殿や姜子昌様は軽蔑なされたのでしょうか……
おぬし姜子昌殿の言葉を聞いてなかったのか
え……
「負けて学ぶ」と…
あの退くことを知らん項武も屈辱にまみれながらも軍師に策を求め勝将になったのじゃろう？

……！
戦はまだ続く……
おぬしも傷が癒えればまた出撃の命も降ろう
だがそれはおぬしの恥をぬぐうためではない
負けて学んだと思っておるからじゃ
そして今度は勝報を大将軍に報告するがよい
その時餃子の件も答えてくれるじゃろう
ははっ!!


神楽の白象戦車隊を打ち破られ五丈軍に包囲消耗戦を強いられた夏候才軍の将兵は次第に孤立感を深めていった
数時間おきに攻めてくる五丈軍に対して臨戦態勢をとり続ける南天兵は疲労の色を隠せなかった
うぬう……


これでは兵は長くはもたん……
なんとかしなくては……
将軍！
なにっ！反乱!!
ガニ
ガニ
ガニ
カニ


ええいっ
きさまら
何をしておる!!
この裏切り者が!!
敵前逃亡は
死罪じゃぞ!!
だが どんなに
見せしめの処刑をしても
根本的な矛盾突破の
解決策なくしたのでは
効果はなく
監視の目を
盗んでの逃亡が
止まらぬ出血の
如く続いた

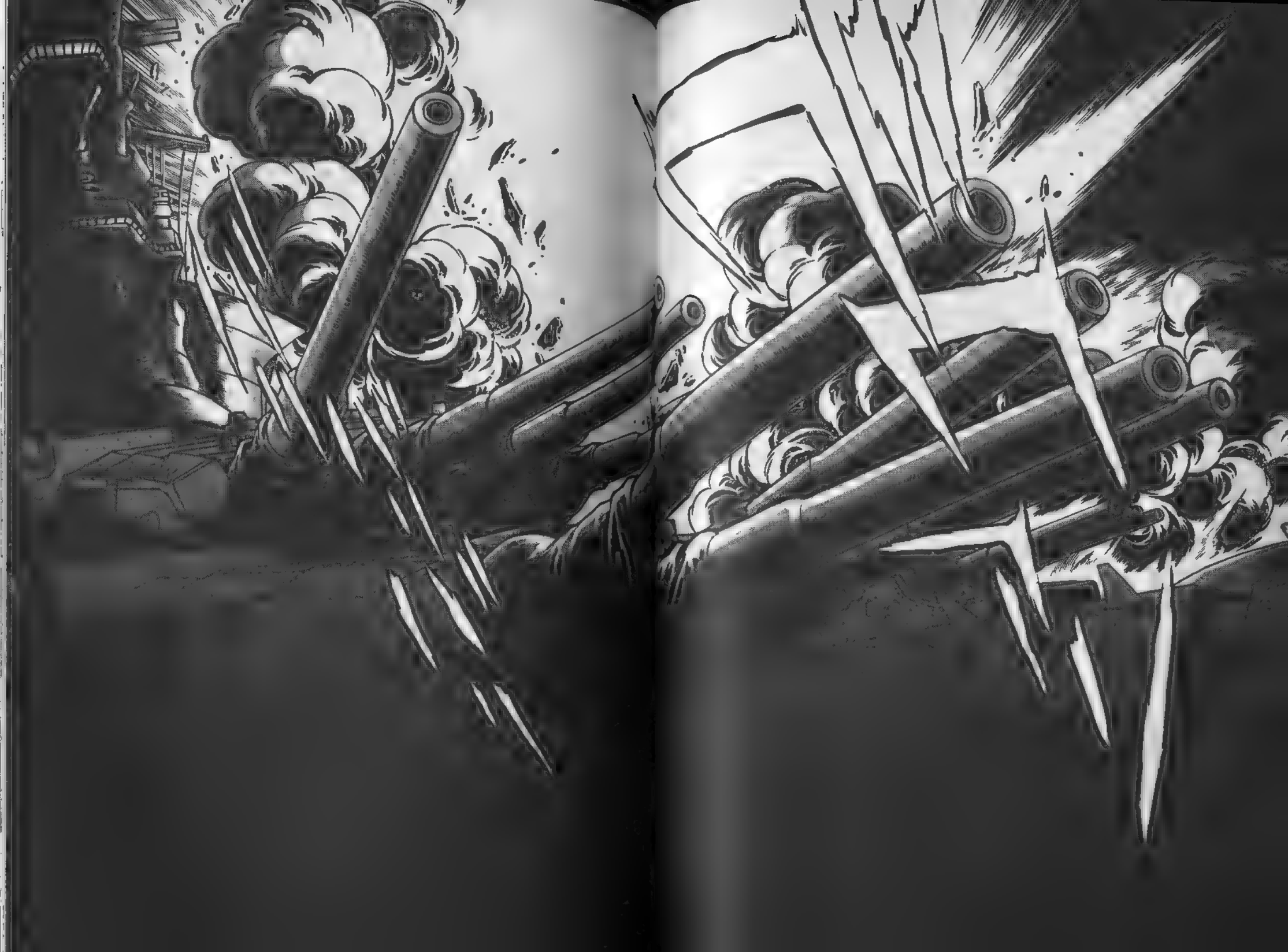
そうか
兵の逃亡は
止まらぬか
はっ
監視を強め
逃亡者には
厳重な処罰をして
おるのですが
監視する者も
共に逃亡する
始末で……
……
まだ
弾薬も
食糧も
充分ある!
ふがいない
やつらだ!
いえ
将軍
兵というものは
実際に食糧が
底をつくよりも
なくなる過程での
不安が
大きいものです
将たる者
負け戦の時は
兵士をひとりでも
助けるべきで
ございます
な……
なんだとおっ!!

きさま……
まさかこの俺に投降しろというのか!!
こんな状態でどう戦えというのです
援軍も来ず我々は見捨てられたのかもしれないのですぞ!
ぬうう この日和見主義者め!
たわ言を並べおって!!
武士には命をかけても守る節義があるのだ 殿のご厚恩を考えればなおさらだ!
将軍! あなたの意地だけで兵を死なせてはなりません!!
どうぞ重大な決断をもって兵を父母の地へお帰しください!
まだいうか!!

皆の者 見よ!!
ごやつは軍の要職にありながら愚かにもこの俺に反逆をすすめた!!

我らは
南天の中での
最精鋭軍だ！
我らに
先鋒の名誉を
お与えくださった
殿のご恩に報いる
ためにも
二心を戒め
一丸となって
五丈を討つのだ

指揮官の
断固たる決意は
一時的でも
兵の戦意の
高揚をもたらしたが……



ドゴゴゴ!!
うおおっ!!
ぎゃあっ!!
わわわ!!
な……何事だ!!
て……敵の砲撃です!!
左舷船腹を直撃!
第二装甲板まで貫通されました!!
ば…ばかな……!!
今までどんな猛攻にもびくともしない帝虎級戦艦の装甲だった
それを…破られた衝撃は大きかった!!
うわっ!!
くそうっ敵のどの艦だ!!
将軍!左十時の方向に発砲煙です!!

ゴゴゴゴ
おおっ!?
あれは……!?

まだ装甲の表層で爆発している
弾底信管が確実に装甲を撃ち抜いた後に炸裂させるようにしてください
はい
[redacted]〇〇二運動！
装塡準備
急げ――っ!!

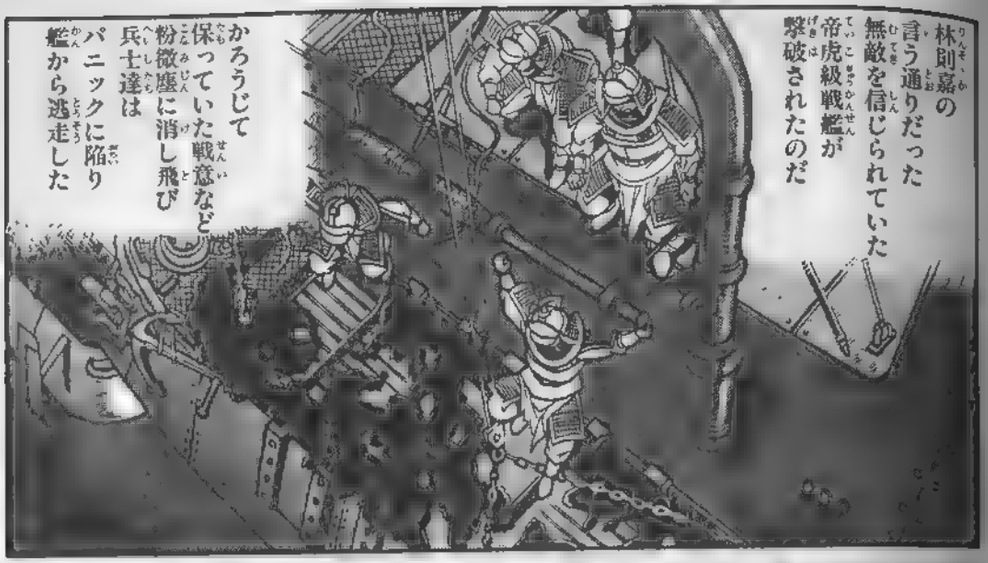
装塡!!
尾栓閉鎖!!
艦首左回頭!!
あの長っ鼻をつぶすぞ
艦首主砲三門斉射!!

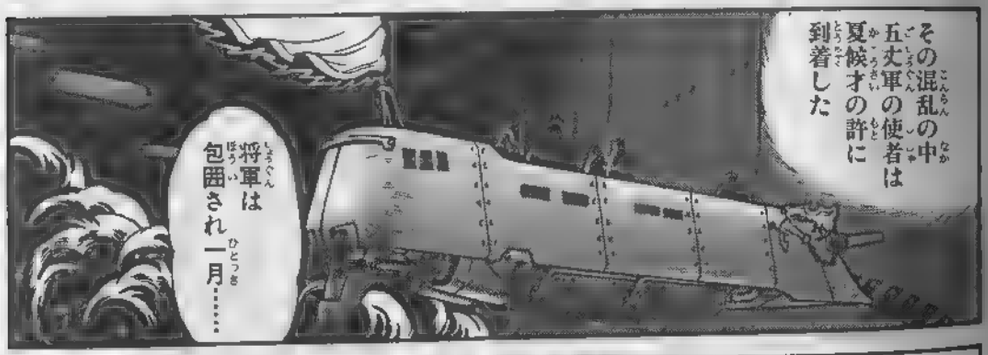
急げーっ!!
発砲!!

敵艦発砲!!
正面です!!
!!

ぎゃあああっ

見事です
さすが裴民殿の
作った巨砲！
高初速での
砲口のブレもなく
破甲榴弾の威力も
申し分ない
裴伯殿も
よく短時間で
この巨砲を
整備して
くださいました
父上も
お喜び
でしょう
は！
そのお言葉……
亡き父にとって
何よりの手向けに
なります
もういいでしょう
この巨砲の力は
わかりました
夏侯才の許に
使者を送りなさい
え？
沈めないの
ですか
今の砲撃で
敵の士気も
相当くじけて
いるでしょう
降伏させます
無駄な血は
流したくないし
何よりも
帝虎級戦艦を
捕獲できますしね


林則嘉の
言う通りだった
無敵を信じられていた
帝虎級戦艦が
撃破されたのだ
かろうじて
保っていた戦意など
粉微塵に消し飛び
兵士達は
パニックに陥り
艦から逃走した


その混乱の中
五丈軍の使者は
夏候才の許に
到着した
将軍は
包囲され一月……

援軍も得られぬまま
戦い続けたこと
まことにご立派
武運つたなく
降っても決して
名を汚すことには
なりません
だまれ！
だれが
きさまら
なんぞに
降るか!!
……

それがし羅候様よりこの艦を預かった時からこの艦上を死に場所と決めている
説得は無駄だ！
将軍はまだまだ功をなされるお方竜王様も大事にしましょう生きることを喜ばれよ
ここで死ぬ以上の名誉はあるまい
惜しいまことに惜しい武名は生きていてこそのものあの世に旅立って何の役に立ちましょう
もう何も言うな引き取られい！
将軍！

船は大破兵は四散しましたもはや残された道はひとつです
自分の首を落とすことは容易い
だが我々にはやらねばならんことがある
ひとつはこの艦を敵の手に渡してはならない！
もうひとつはあの巨砲のことを何としても本陣に伝えねば……
！
わかりました残存兵力で準備いたしましょう！

父上……
才は決して
父上の名を
汚しません！
将軍
準備が
できました
決死隊
三百名！
皆志願
しました!!
よし！

ああっ!?
自沈(じちん)した!?

ドドド

うぐおっ!!
林軍師!
危険です
お退がりを!!

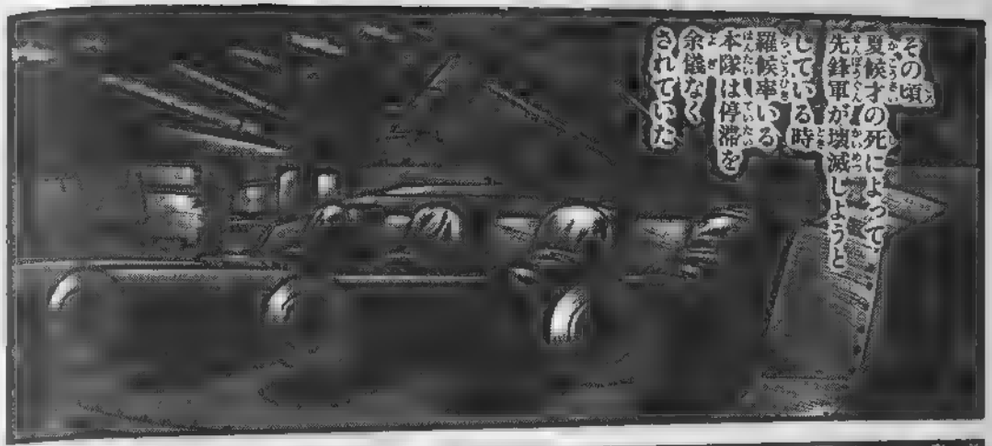
うわあ!
ぎゃあ!!
ひるむな——っ!!
やつらを
巨砲に
近づけるな!!

うおおおっ!!
!!

ぐ……っ!!

ききまは…!!
なぜ降伏されなかった……
あなた次第で多くの兵士の命が助かったものを……!
勝ったつもりか!! 思いあがるなよ小僧!!
ききまらごときの小細工のひとつやふたつ…!!
我が南天はビクともせんわ!!
五丈の副軍師林則嘉……!
そうか……竜我には二人の知恵袋がついておるとは聞いていたが……
ききまがその片われか……

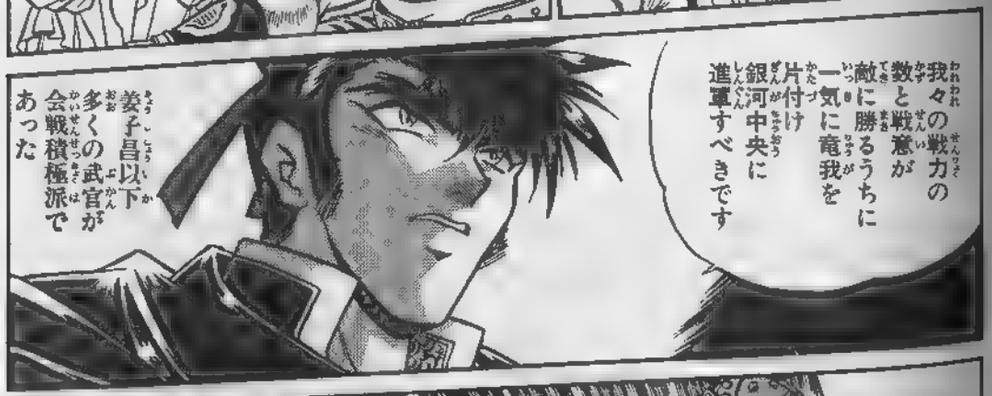
おろかな……
勇を履き違えていますよ……!


その頃
夏候才の死によって
先鋒軍が壊滅しようと
している時
羅候率いる
本隊は停滞を
余儀なく
されていた

……
家臣達の
意見が
真っぷたつに
別れてしまったのだ

だから
俺が
言いたい
のは…!!
いやいや
それは道理に
合わぬぞ将軍
ええい
そんな弱腰で
どーする!!
人の話を
最後まで
聞かんか

え――い
だまれ
だまれ!
どいつも
こいつも
ピーチク
パーチク
うるせえぞ!!
姜子昌!
おまえは
このまま進み
一気に艦隊決戦に
臨むという
考えか!?
もちろんで
ございます

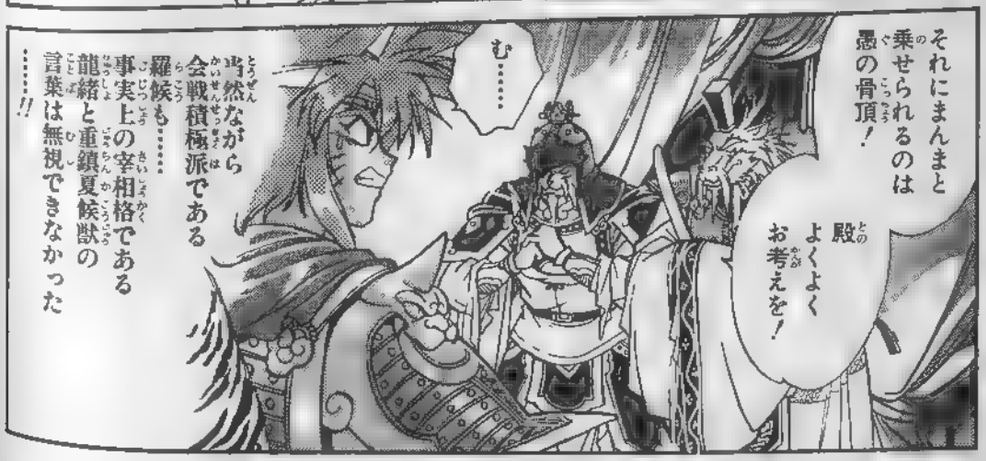

我々の戦力の
数と戦意が
敵に勝るうちに
一気に竜我を
片付け
銀河中央に
進軍すべきです
姜子昌以下
多くの武官が
会戦積極派で
あった

我々も
大将軍と同じ
考えです!
彼らは
膠着状態に
陥ろうとしている
戦況を会戦で
一気に撃ち
破ろうと考えていた
殿!
ご決断を!!

あ――
いかん
いかん

その方らは
五丈軍の
実力を誤解
しておる！
老将軍！
龍緒殿は
まだその様なことを
申されるのか!!

そして
会戦消極派の
代表が
この龍緒と
夏候獣であった
五丈軍は
今や兵力的にも
追いつめられています
一発逆転が可能な
会戦に命運を
賭けるのは
我々ではなく
五丈軍のはず！


それにまんまと
乗せられるのは
愚の骨頂！
殿
よくよく
お考えを！
む……
当然ながら
会戦積極派である
羅候も……
事実上の宰相格である
龍緒と重鎮夏候獣の
言葉は無視できなかった
……!!

なら
どうしろと
いうのだ！
このまま
ズルズル五丈領内で
立ち往生か!?
されば金角 銀角
両将軍にそれぞれ
三百万の兵をもたせ
遊軍として
五丈の要衝を
襲わせます
領土を荒し回り
五丈軍を東奔西走させ
足腰の弱った時に
討てば
いながらに勝利を
手にすることが
できましょう

我々の突撃衝力が
日々
失われつつある今
決戦に望まねば
機を逸することに
なりますぞ！
あぶない
あぶない
敵の軍師は謀略家
今 中央で巡らす
必勝の策を捨て
一戦で勝敗を
決するおつもりか！

その時
南天軍首脳部に
一通の凶報が
舞いこんだ
な…なにいっ!!
夏候才が!?

ばかな…
あの夏侯才が
死んだだと…！
ばかな!!
あいつには
こう言ったんだ！
「俺が天下人に
なるのを
見届けろ」と
それなのに
先に逝きやがって…!!
殿！
そう嘆かれ
ますな
先鋒を
受け給った
からには
討ち死には
覚悟の上で
ござる!!
夏侯獣!!
安心しろ
必ず
仇は討って
やるからな!!
それは
なりませぬ!!
一家臣の死などで
大局を誤っては
なりませぬぞ！
ここはあくまでも
自重が肝要と
心得ます！
言うな！
夏侯才は
いわば
なぶり殺しに
なったも
同然だぞ！
仇を討たねば
俺の腹の虫が
収まらんわ!!
殿!!
夏侯才将軍の
弔い合戦を!!

全軍に伝えいっ！決戦だ!!

小手先ばかりの五丈軍に我が南天の力を見せつけてやるのだ!!

と…殿!! 激情にて事を決してはなりません！

冷静に!!

ええいっこれ以上言うな龍緒！竜我を討ち取ればすむことだ!!

姜子昌!! 全軍の指揮を執れ!!

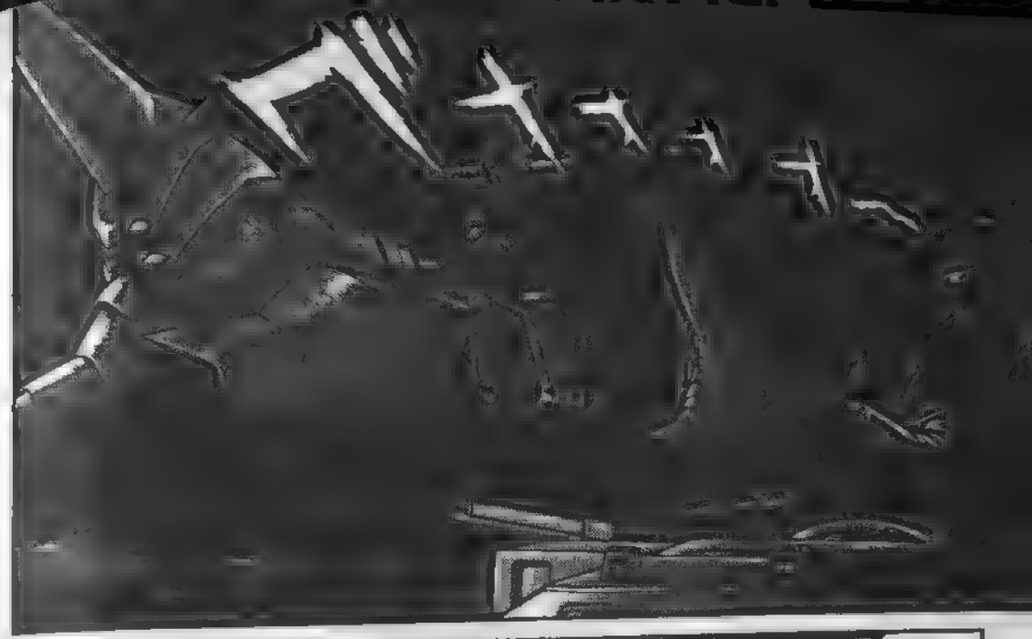
俺は戦闘艦橋にあがる!!

はっ!!

五丈のバカ者共に戦はどうゆうものか教えてやる!!

一度怒り出すと誰の言葉にも耳を貸さない羅候である龍緒も天を仰いで溜息をつくしかなかった

南天軍はすさまじい羅候の怒りと共に全軍をあげて五丈軍本隊に向かったのである！



竜王様！

決戦の時が参りました!!

装民の巨砲の試射成功によりすべて準備が整いました

おおっいよいよだな！

待ってました!!

項羽は戦いながら敵を地の利のある海域に誘導してくれた

今まさに南天軍はその海域に突入しようとしている

その海域の名は六紋海！

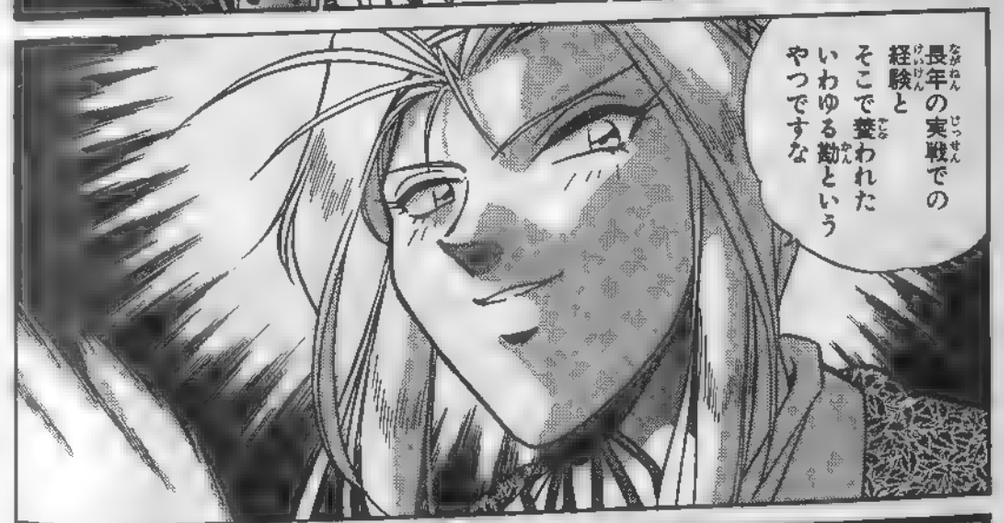
六紋海……

そこはどんな場所なんだ？

ここから西に八十海里そこに広がる大海原が六紋海です

その入口は六つの海峡に限定され五つの惑星四つの太陽三つの大江があり兵を縦横に伏すのに最も適した地

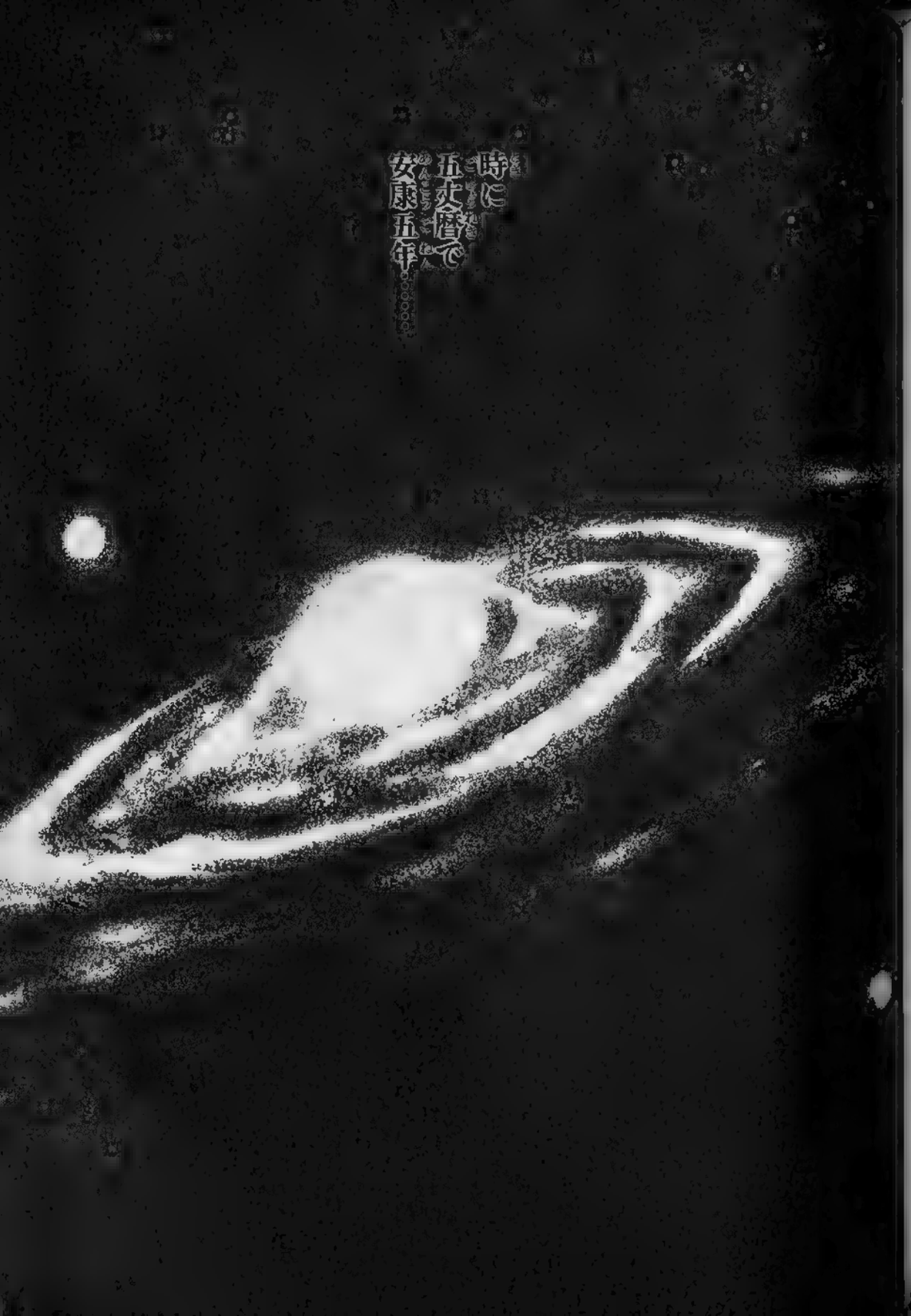
気候・海流の変化も激しくまさしく要兵の地だ
天候をも味方にせねばならない我々にとってこれ以上の場所はないでしょう
わたしがこの一戦のために多くの候補地より選び抜きましたもちろん仕込みも終わっております
だがここまで我々にとって条件のいい場所に敵は堂々と乗り込んできているぞ
羅候はともかく姜子昌までもが怒りにまかせて進軍したとは思えん
たしかに……
罠をかみ破る自信があるということです
姜子昌とは初めての対戦だどんな男だ？
やつは練王羅候とはいわば竹馬の友
その信頼は揺るぎないものです
南天の武将の中ではなかなかの傑物！
正宗の失脚を謀るなど油断のならぬ男です
ほ――それほどの男か……おまえと比べてみてどのくらいだ？
わたしと？
ふっ
愚問だったか？
姜子昌は教養においては骸延
そして軍事的センスにおいては正宗に及びますまい



兵法とは
法と理論である
という考えの
持ち主である師直は
時たま見かける
そのようたつを超越した
ものの存在を
認めようと
しなかった
その存在が
戦場を左右する
ことなどあって
ならないと
固く信じていたのだ

大覚屋師真を
侮ってはいけません
恐ろしく
キレる男ですぞ
けっ
何いってやがる
たかが商人あがりの
そろばん使いだ
恐るるにたらん!!
いえ やつは
まさしく
天下の鬼才
この姜子昌なぞ
その知謀に
おいては
足許にも
及びますまい
な……
なにいっ?
しかし……!!
やつの兵法は
いわば
机上の空論
実戦も
数えるほどしか
経験して
いません
やつには
理解できないの
です

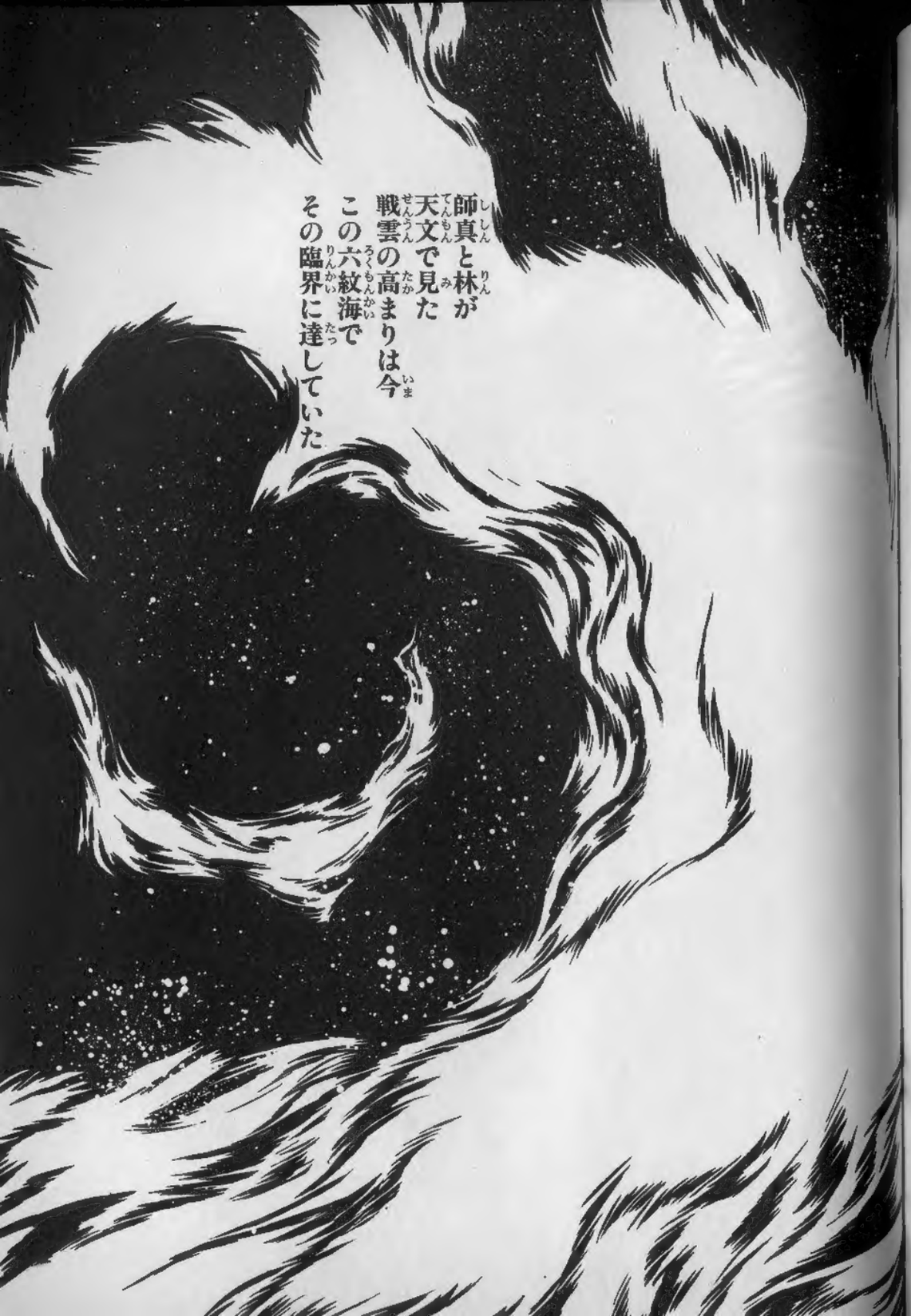
戦場を彩る
血と硝煙の臭いが!!
兵士が何を考え
何を喰い
何を欲しがって
いるのか……
兵士の闘争心が
何に基づいて
いるものなのか!
初陣より
軍師として
人を駒にすることしか
考えていない男には
理解できないのです!
天才戦略家も
一皮剝けば
数字と文字の
羅列しか知らぬ
書生にすぎません
不肖姜子昌
先代様より中隊を
お預かりして以来
戦場での経験は
だれにもひけを
取りませぬ!


時に
五丈原で
女康五年

なら
破る自信は
あるんだな！
もちろんです
やつの戦いぶりを
詳細に見てみると
慎重ぶりが
目に付きます

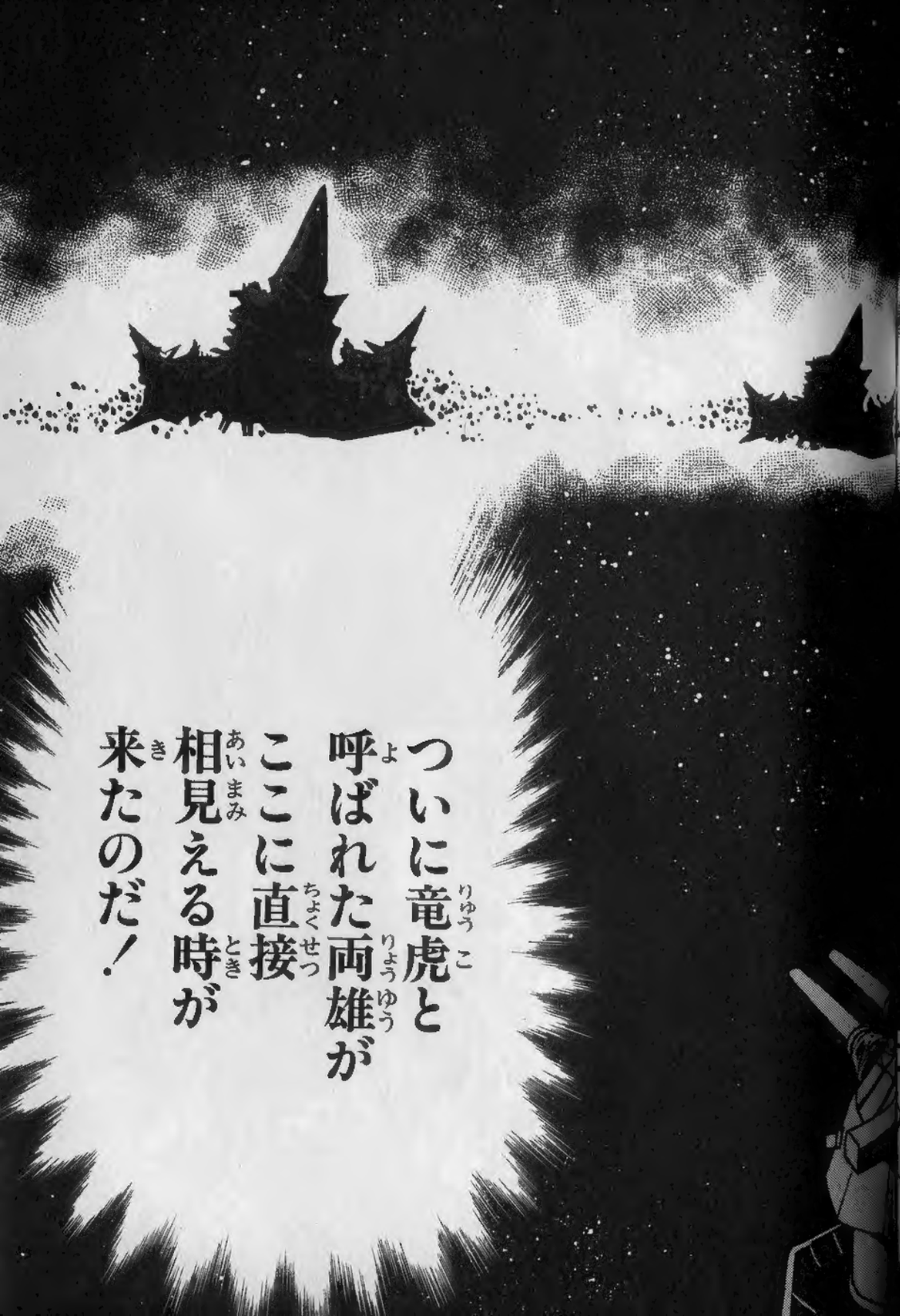
絶対に負けない
地形・状況を
慎重に選んで
います
それは
まことに兵法の
基本でございますが
度が過ぎると
ただの取り越し
苦労にすぎない

軍の総大将には
あたかも握り拳で
ガラス戸を突き破る
ような意気が
肝心……！
実戦経験の少ない
やつに欠けてる
部分は
そこです！

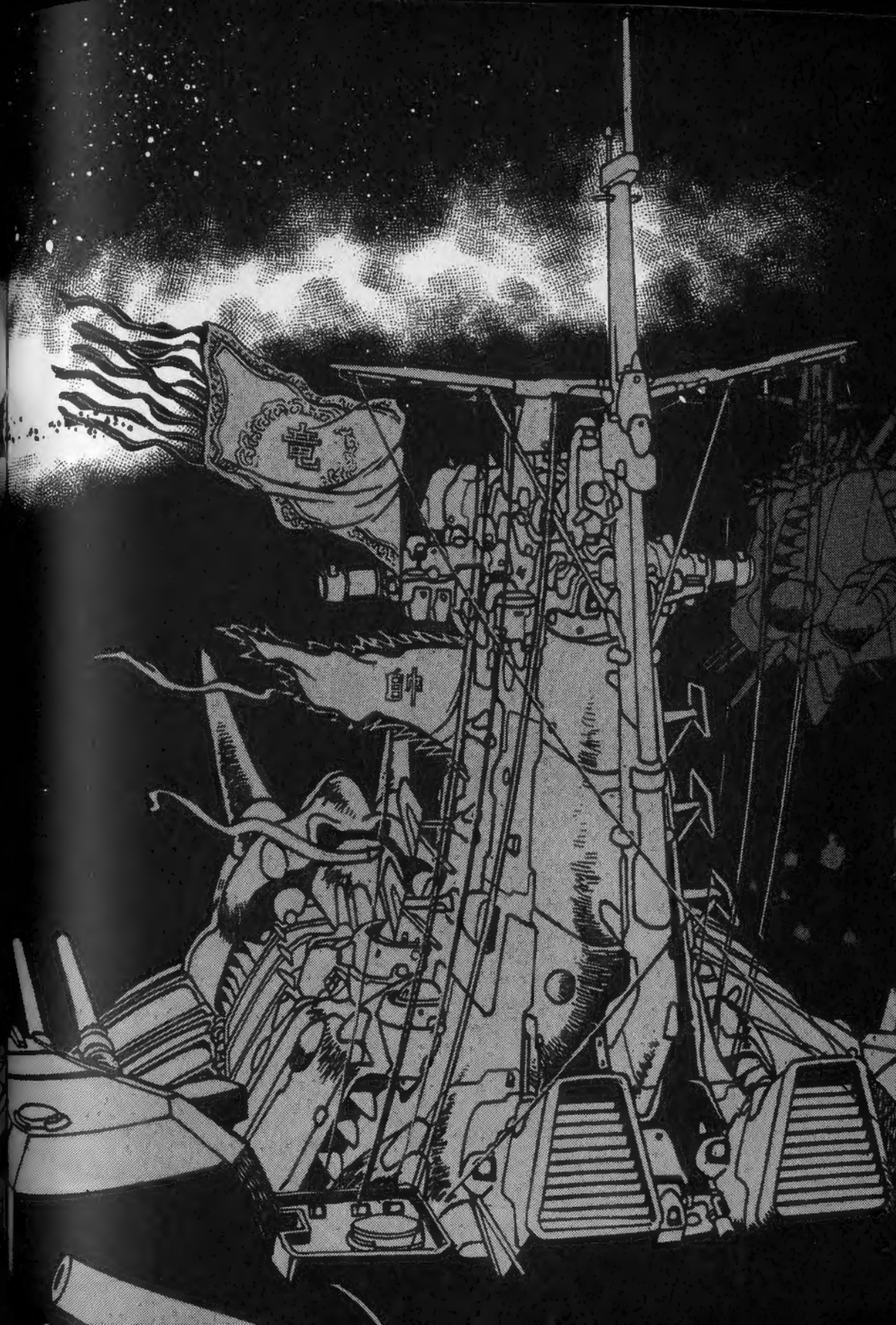

師真と林が
天文で見た
戦雲の高まりは今
この六紋海で
その臨界に達していた

竜我雷
南京楼より
旗揚げして
七年、

雒侯
練玉
八年
即位して



ついに竜虎と
呼ばれた両雄が
ここに直接
相見える時が
来たのだ！



竜虎の対決は
即ち
二人の軍師の
知謀の対決で
あった

きさまの負けだ
大覚屋師真!!

夫れ籌策を
帷帳の中に運し
勝利を千里の外に
決すると称された
二人の男
五丈丞相大覚屋師真
南天大将軍姜子昌

師真は命令変更を
一瞬ためらった
姜子昌の策が
五丈軍から機動戦の
余地を奪い
砲撃戦で雌雄を
決するのが目的と
見破ったのだ

わかってはいながら
数では圧倒的に劣る
五丈軍としては
兵士の戦闘意欲の
爆発に期するものが
あった
命令変更によって
それが削がれるのを
師真は嫌ったのである

兵法にもある……
「まず敵将船を破る
しかるのち我が全力を
もって敵の分力を
撃つ」とな……

基本をしっかり
守ってやがる
姜子昌の奴…!!

私情を捨て
全身全霊をもって
己が主君のために
火花を散らす両雄

新帝国の
設計者でもある
彼らの戦いはここ
六紋海で頂点に
達する

銀河戦国群雄伝ライ
第十七巻

二人の知謀の戦いの結果は如何に!?

Dengeki Comics

銀河戦国群雄伝ライ ⑯

1997年10月25日　初版発行

著者　真鍋譲治

発行者　佐藤辰男

発行所　株式会社メディアワークス　〒101 東京都千代田区神田駿河台1-8 東京YWCA会館　電話03-5281-5214(編集

発売元　株式会社主婦の友社　〒101 東京都千代田区神田駿河台2-9 電話03-5280-7550(営業)

装丁　朝倉哲也+design CREST

印刷・製本　共同印刷株式会社

©JOJI MANABE 1997

R本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡ください。

Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

初出／月刊電撃コミックガオ！'97年2月号～7月号(メディアワークス刊)

ISBN4-07-307187-4 C0979